

平成25年度 東日本大震災 ボランティア支援活動記録

東京大学
東大京東

東京大学 救援・復興支援室

ボランティア活動支援のあゆみ.....1

1. 東京大学夏季ボランティア隊の派遣.....8
 - (1)募集要項
 - (2)お知らせ
 - (3)参加者のしおり(抜粋)
 - (4)活動報告

2. 岩手県陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティアの派遣・・20
(6～7月／9月／10～12月／年末年始／2月)
 - (1)募集要項(初回分のみ掲載)
 - (2)お知らせ
 - (3)参加者のしおり(初回分のみ掲載)
 - (4)活動報告

3. 福島県相馬市「育英館・寺子屋」学習支援ボランティアの派遣.....50
(5～6月／7～8月／9～10月／11～12月／1～3月)
 - (1)募集要項(初回分のみ掲載)
 - (2)お知らせ
 - (3)参加者のしおり(初回分のみ掲載)
 - (4)活動報告

4. 福島県大熊町の避難生徒への学習支援ボランティアの派遣.....78
 - (1)募集要項
 - (2)お知らせ
 - (3)参加者のしおり(抜粋)
 - (4)活動報告

5. ボランティア活動支援金.....95

6. ボランティア活動状況調査の結果.....99

7. 組織・メンバー.....108

ボランティア支援活動のあゆみ

H23.3.11	14時46分三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震発生「災害対策本部」の設置（総長裁定）
H23.3.22	被災地におけるボランティア活動について（第1報）（災害対策本部長／理事・副学長）慎重な計画と判断を要請
H23.4.1	震災の名称を「東日本大震災」とすると政府が発表
H23.4.1	東日本大震災に関する災害対策本部について（対策本部長／総長）総長を対策本部長とする体制整備
H23.4.1	東北地方太平洋沖地震に伴う学生のボランティア活動について（通知）（文部科学副大臣）同13日に学内通知
H23.4.11	東日本大震災に関する「救援・復興支援室」の設置（総長裁定）室の下に「ボランティア支援班」を設置
H23.4.15	被災地におけるボランティア活動について（第2報）（救援・復興支援室ボランティア支援担当／理事・副学長）届出様式
H23.4.27	第1回東京大学学生ボランティア活動の報告・連絡会の開催
H23.4.28	救援・復興に係るプロジェクト登録の開始
H23.5.12	救援・復興支援に関する活動（含ボランティア活動）状況調査の実施 H23.3.11-H23.5.12
H23.5.13	救援・復興支援室「遠野分室」の設置
H23.5.13	救援・復興支援室「大槌連絡所」の設置
H23.5.26	救援・復興支援室の班の設置（ボランティア支援班は班員整備）ボランティア支援班／情報発信班／大槌復旧建設班
H23.6.3	ボランティア支援班会議（第1回）
H23.6.14	東日本大震災に係るボランティア参加への意向調査の実施（職員）
H23.6.27	東日本大震災に係る「夏季ボランティア隊」参加者の募集について 初企画：募集人員45名×5班
H23.6.28	ボランティア支援班会議（第2回）
H23.6.28	第2回ボランティア活動報告会の開催
H23.7.25	東京大学救援・復興支援室遠野センター（遠野東大センター）の開所
H23.7.28	夏季ボランティア隊説明会の開催
H23.8.3～8.7	夏季ボランティア隊第1班派遣（44名）
H23.8.9～8.13	夏季ボランティア隊第2班派遣（47名）
H23.8.24～8.28	夏季ボランティア隊第3班派遣（46名）
H23.9.3～9.7	夏季ボランティア隊第4班派遣（42名）

- H23.9.18～9.22 夏季ボランティア隊第5班派遣（41名）
- H23.9.27 夏季ボランティア隊参加者アンケート調査の実施
- H23.9.28 ボランティア支援班会議（第3回）
- H23.10.7 第3回ボランティア活動報告会及び懇談会の開催
- H23.10.13 ボランティア活動状況調査（第2回目）の実施 H23.5.13-H23.9.30
- H23.11.4 ボランティア支援班会議（第4回）
- H23.12.5 ボランティア支援班会議（第5回）
- H23.12.6 「ボランティア活動支援金」の制度開始
- H23.12.21 陸前高田市「学びの部屋」学習支援説明会の開催
- H23.12.26～12.29 陸前高田市「学びの部屋」（年末年始）
学習支援A班派遣（学生7名）
- H24.1.6～1.9 陸前高田市「学びの部屋」（年末年始）
学習支援B班派遣（学生9名）
- H24.2.1 ボランティア支援班会議（第6回）
- H24.2.18～2.19 陸前高田市「学びの部屋」（2～3月）
学習支援A班派遣（学生10名）
- H24.2.25～2.26 陸前高田市「学びの部屋」（2～3月）
学習支援B班派遣（学生9名）
- H24.3.3～3.4 陸前高田市「学びの部屋」（2～3月）
学習支援C班派遣（学生8名）
- H24.3.17～3.18 陸前高田市「学びの部屋」（2～3月）
学習支援D班派遣（学生8名）
- H24.3.23～3.30 福島県大熊町（大熊中学校・3月）
学習支援派遣（学生22名）
- H24.3.26 ボランティア支援班会議（第7回）
- H24.4.中旬 「平成23年度東日本大震災ボランティア支援活動記録」の編集
- H24.4.23 ボランティア支援班会議（第8回）
- H24.4.28～5.1 GWボランティア隊第1班派遣（41名）
「学びの部屋」1日（6名）含む
- H24.5.2～5.5 GWボランティア隊第2班派遣（36名）
「学びの部屋」1日（6名）含む
- H24.5.26～5.27 陸前高田市「学びの部屋」（5～7月）
学習支援A班派遣（学生5名）
- H24.5.31 ボランティア活動状況調査（第3回目）の実施 H23.10.1-H24.5.10
- H24.6.9～6.10 陸前高田市「学びの部屋」（5～7月）
学習支援B班派遣（学生5名）

- H24. 6. 14 ボランティア支援班会議（第9回）
- H24. 6. 16～6. 17 相馬市「寺子屋事業」（6～7月）
学習支援A班派遣（学生6名）
- H24. 6. 23～6. 24 陸前高田市「学びの部屋」（5～7月）
学習支援C班派遣（学生5名）
- H24. 6. 30～7. 1 相馬市「寺子屋事業」（6～7月）
学習支援B班派遣（学生6名）
- H24. 7. 7～ 7. 8 陸前高田市「学びの部屋」（5～7月）
学習支援D班派遣（学生5名）
- H24. 7. 7～7. 8 相馬市「寺子屋事業」（6～7月）
学習支援C班派遣（学生5名）
- H24. 7. 21～7. 22 相馬市「寺子屋事業」（6～7月）
学習支援D班派遣（学生5名）
- H24. 7. 24 ボランティア支援班会議（第10回）
- H24. 8. 2～8. 6 夏季ボランティア隊第1班派遣（36名）
「学びの部屋」2日（各6名）含む
- H24. 8. 9～8. 13 夏季ボランティア隊第2班派遣（40名）
「学びの部屋」2日（各6名）含む
- H24. 8. 23～8. 27 夏季ボランティア隊第3班派遣（37名）
「学びの部屋」1日（6名）含む
- H24. 8. 17～8. 24 福島県大熊町（大熊中学校・8月）
学習支援派遣（学生11名）
- H24. 9. 19 ボランティア支援班会議（第11回） メール審議
- H24. 9. 8～9. 9 相馬市「寺子屋事業」（9～10月）
学習支援A班派遣（学生7名）
- H24. 9. 29～9. 30 相馬市「寺子屋事業」（9～10月）
学習支援B班派遣（学生7名）
- H24. 10. 10 第4回ボランティア活動報告会及び懇談会の開催
- H24. 10. 13～10. 14 相馬市「寺子屋事業」（9～10月）
学習支援C班派遣（学生7名）
- H24. 10. 20～10. 21 陸前高田市「学びの部屋」（10～12月）
学習支援A班派遣（学生6名）
- H24. 10. 27～10. 28 相馬市「寺子屋事業」（9～10月）
学習支援D班派遣（学生6名）
- H24. 11. 3～11. 4 陸前高田市「学びの部屋」（10～12月）
学習支援B班派遣（学生6名）

- H24. 11. 10～11. 11 相馬市「寺子屋事業」(11～12月)
学習支援A班派遣(学生7名)
- H24. 11. 17～11. 18 陸前高田市「学びの部屋」(10～12月)
学習支援C班派遣(学生6名)
- H24. 11. 24～11. 25 相馬市「寺子屋事業」(11～12月)
学習支援B班派遣(学生7名)
- H24. 12. 1～12. 2 陸前高田市「学びの部屋」(10～12月)
学習支援D班派遣(学生4名)
- H24. 12. 3 ボランティア支援班会議(第12回)
- H24. 12. 8～12. 9 相馬市「寺子屋事業」(11～12月)
学習支援C班派遣(学生7名)
- H24. 12. 22～12. 23 相馬市「寺子屋事業」(11～12月)
学習支援D班派遣(学生7名)
- H24. 12. 25～12. 28 陸前高田市「学びの部屋」(年末年始)
学習支援A班派遣(学生5名)
- H25. 1. 5～1. 8 陸前高田市「学びの部屋」(年末年始)
学習支援B班派遣(学生6名)
- H25. 1. 8～1. 11 陸前高田市「学びの部屋」(年末年始)
学習支援C班派遣(学生6名)
- H25. 1. 19～1. 20 相馬市「寺子屋事業」(1～3月)
学習支援A班派遣(学生7名)
- H25. 2. 2～2. 3 相馬市「寺子屋事業」(1～3月)
学習支援B班派遣(学生7名)
- H25. 2. 4 ボランティア支援班会議(第13回)
- H25. 2. 12～2. 15 陸前高田市「学びの部屋」(2～3月)
学習支援A班派遣(学生8名)
- H25. 2. 16～2. 17 相馬市「寺子屋事業」(1～3月)
学習支援C班派遣(学生7名)
- H25. 2. 19～2. 22 陸前高田市「学びの部屋」(2～3月)
学習支援B班派遣(学生8名)
- H25. 2. 26～3. 1 陸前高田市「学びの部屋」(2～3月)
学習支援C班派遣(学生8名)
- H25. 3. 2～3. 3 相馬市「寺子屋事業」(1～3月)
学習支援D班派遣(学生7名)
- H25. 3. 15 ボランティア支援班会議(第14回)
- H25. 4. 中旬 「平成24年度東日本大震災ボランティア支援活動記録」の編集

- H25. 4. 19 高田第一中学校（岩手県陸前高田市）の生徒等が本学来訪
- H25. 5. 18～5. 19 相馬市「寺子屋事業」（5～6月）
学習支援A班派遣（学生7名）
- H25. 5. 25～5. 26 相馬市「寺子屋事業」（5～6月）
学習支援B班派遣（学生7名）
- H25. 6. 8～6. 9 陸前高田市「学びの部屋」（6～7月）
学習支援A班派遣（学生7名）
- H25. 6. 15～6. 16 相馬市「寺子屋事業」（5～6月）
学習支援C班派遣（学生7名）
- H25. 6. 17 ボランティア支援班会議（第15回）
- H25. 6. 22～6. 23 陸前高田市「学びの部屋」（6～7月）
学習支援B班派遣（学生8名）
- H25. 6. 29～6. 30 相馬市「寺子屋事業」（5～6月）
学習支援D班派遣（学生7名）
- H25. 7. 5 ボランティア活動状況調査（第4回目）の実施 H24.5.11～H25.3.31
- H25. 7. 6～7. 7 相馬市「寺子屋事業」（7～8月）
学習支援A班派遣（学生6名）
- H25. 7. 13～7. 14 陸前高田市「学びの部屋」（6～7月）
学習支援C班派遣（学生7名）
- H25. 7. 20～7. 21 相馬市「寺子屋事業」（7～8月）
学習支援B班派遣（学生7名）
- H25. 7. 24 ボランティア支援班会議（第16回）
- H25. 7. 27～7. 28 陸前高田市「学びの部屋」（7～8月）
学習支援D班派遣（学生8名）
- H25. 8. 9～8. 12 夏季ボランティア隊第1班派遣（41名）
「学びの部屋」1日（各6名）含む
- H25. 8. 10～8. 11 相馬市「寺子屋事業」（7～8月）
学習支援C班派遣（学生7名）
- H25. 8. 18～8. 23 福島県大熊町（大熊中学校・8月）
学習支援派遣（学生9名）
- H25. 8. 23～8. 26 夏季ボランティア隊第2班派遣（39名）
「学びの部屋」1日（各6名）含む
- H25. 8. 24～8. 25 相馬市「寺子屋事業」（7～8月）
学習支援D班派遣（学生7名）
- H25. 9. 7～9. 8 相馬市「寺子屋事業」（9～10月）
学習支援A班派遣（学生5名）

- H25. 9. 17～9. 20 陸前高田市「学びの部屋」（9月）
学習支援A班派遣（学生7名）
- H25. 9. 24～9. 27 陸前高田市「学びの部屋」（9月）
学習支援B班派遣（学生7名）
- H25. 10. 12～10. 13 相馬市「寺子屋事業」（9～10月）
学習支援B班派遣（学生7名）
- H25. 10. 19～10. 20 陸前高田市「学びの部屋」（10～12月）
学習支援A班派遣（学生8名）
- H25. 10. 26～10. 27 相馬市「寺子屋事業」（9～10月）
学習支援C班（台風のため中止）
- H25. 11. 2～11. 3 陸前高田市「学びの部屋」（10～12月）
学習支援B班派遣（学生7名）
- H25. 11. 9～11. 10 相馬市「寺子屋事業」（11～12月）
学習支援A班派遣（学生7名）
- H25. 11. 16～11. 17 陸前高田市「学びの部屋」（10～12月）
学習支援C班派遣（学生8名）
- H25. 11. 23～11. 24 相馬市「寺子屋事業」（11～12月）
学習支援B班派遣（学生6名）
- H25. 11. 30～12. 1 陸前高田市「学びの部屋」（10～12月）
学習支援D班派遣（学生7名）
- H25. 12. 7～12. 8 相馬市「寺子屋事業」（11～12月）
学習支援C班派遣（学生7名）
- H25. 12. 14～12. 15 陸前高田市「学びの部屋」（10～12月）
学習支援E班派遣（学生7名）
- H25. 12. 21～12. 22 相馬市「寺子屋事業」（11～12月）
学習支援D班派遣（学生7名）
- H25. 12. 24～12. 27 陸前高田市「学びの部屋」（年末年始）
学習支援A班派遣（学生6名）
- H26. 1. 7～1. 10 陸前高田市「学びの部屋（年末年始）」
学習支援B班派遣（学生5名）
- H26. 1. 18～1. 19 相馬市「寺子屋事業」（1～3月）
学習支援A班派遣（学生7名）
- H26. 2. 1～2. 2 相馬市「寺子屋事業」（1～3月）
学習支援B班派遣（学生6名）
- H26. 2. 15～2. 16 相馬市「寺子屋事業」（1～3月）
学習支援C班派遣（降雪のため中止）

- H26. 2. 18～2. 21 陸前高田市「学びの部屋」(2月)
学習支援A班派遣(学生8名)
- H26. 2. 25～2. 28 陸前高田市「学びの部屋」(2月)
学習支援B班派遣(学生7名)
- H26. 3. 1～3. 2 相馬市「寺子屋事業」(1～3月)
学習支援D班派遣(学生6名)

1. 東京大学ボランティア隊の派遣

【夏季ボランティア隊】

平成25年8月に、学生・教職員総勢80名を2班に編成し、「東京大学夏季ボランティア隊」として、岩手県遠野市を拠点とした沿岸被災地へ派遣しました。

(1) 募集要項

平成25年6月20日

学生・教職員の皆さんへ

救援・復興支援室

平成25年夏季「ボランティア隊」参加者の募集について

東京大学では、東日本大震災による災害からの復興、再生に向けて、大学全体で支援活動の取組みを行うとともに、学生や教職員が自主的・自発的な支援活動を展開しています。

このたび昨年に引き続き、夏季の休業期間に岩手県遠野市を拠点として沿岸被災地域等において復興支援の活動を行う、学生及び教職員による「ボランティア隊」参加者を募集いたします。

下記の内容をご覧ください、皆様の積極的な応募をお願いいたします。

1 活動期間

第1班 平成25年8月9日(金)～8月12日(月) <3泊4日(うち車中1泊)>

第2班 平成25年8月23日(金)～8月26日(月) <3泊4日(うち車中1泊)>

※ 各班とも、最終日は早朝(6時頃)に東京大学本部棟前に到着予定です。

2 募集人員

各班40名程度

3 応募資格

本学の学生(保護者の承諾が必要)及び教職員で、本学の支援活動の理念等に賛同し組織的な復興支援活動ができる方。

※ 本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ウェブサイトを参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/index_j.html

4 活動内容

現地のニーズや時の経過によって、活動の内容・状況の変化が予想されます。

一般的には、被災地域のがれき除去・清掃作業、被災児童・生徒の学習支援、仮設住宅等での各種サポート活動等が想定されますが、具体的な活動内容は被災地の連携団体に委ねることになります。

なお、天候不良等により活動が中止になる場合は、場所を変更しての活動等を予定しています。

5 宿泊場所

遠野市大日地区（15区）コミュニティ消防センター／ 各班の男子

同 大日地区（4区）コミュニティ消防センター／ 各班の女子

※ 参加状況などを踏まえて、場所が変更となる場合があります。

※ 宿泊場所・寝具は大学が確保しますので、参加者の負担はありません。

6 活動場所

岩手県陸前高田市又は釜石市

※ 天候不良等により場所が変更となる場合があります。

7 活動日程（時間は目安です。内容が変更になる場合があります。）

第1日目 7：30 東京大学集合

8：00 バスで大学を出発（途中で昼食）

17：00 遠野市に到着（買出し、入浴等）

19：00 宿泊場所に到着（連絡事項の伝達、夕食、ミーティング

等）

22：00 就寝

第2日目 6：00 起床、洗面・朝食・片付け

7：15 宿泊場所を出発（移動）

9：00～15：00 活動（昼食持参）

17：00 遠野市に帰着（買出し、入浴等）

19：00 宿泊場所に到着（夕食、ミーティング等）

22：00 就寝

第3日目 6：00 起床、洗面・朝食・片付け

7：15 宿泊場所を出発（移動）

9：00～15：00 活動（昼食持参）

17：00 遠野市に帰着（買出し、入浴等）

19：00 宿泊場所に到着（夕食、ミーティング等）

帰り仕度、片付け・清掃

21:30 現地出発（夜行バスで帰路）

第4日目 6:00 大学に到着・解散

8 現地等への移動手段

東京（本郷）～遠野市内／ 大学が借上げるバス（1台）

遠野市内（宿泊場所）～活動場所／ 現地の送迎バス

※ 上記バス利用は、参加者の負担はありません。

9 生活環境

- ・ 宿泊 大部屋（畳又はフローリング敷き）。寝具は大学が用意します。
- ・ 入浴 宿泊場所に風呂・シャワー設備はありませんので、郊外の入浴施設（有料）への送迎を予定しています。
- ・ 食事 各自準備（遠野市内に大型スーパー、コンビニ、食堂等あり）。
宿泊場所に給湯設備、簡易な調理設備があります（持込コンロ等は使用禁止）。
- ・ 洗濯 宿泊場所に設備はありません。

10 大学が用意するもの

- ・ 寝具一式、ビブス（ユニホームなどの上に着用するベスト状のもの。大学名入り）、名札、手袋（軍手）、防塵マスク、大ビニール袋、生活雑品

11 個人が用意するもの

- ・〈必需品〉作業着（長袖、長ズボン）、着替え、洗面用具、入浴用品、タオル、マスク、ゴム手袋（厚手）、上下カップ、帽子、作業靴（踏抜き防止用スチール製中敷き含）、水筒又はペットボトル、災害ボランティア保険加入が分かるもの（加入カード、加入証等）、現金（食事、飲み物、入浴、他）
- ・〈その他〉携帯電話（充電器含）、時計、身分証明証（学生証）、健康保険証、各自必要な薬品、他

12 注意事項等

- (1) 本件ボランティアについては、大学が募集して派遣することになりますが、基本的には ボランティアの理念に沿って**自己責任、自己完結**を原則とします。
- (2) 活動内容は、状況に応じて現地連携団体に委ねることになりますので現地において決定される予定ですが、勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください。

なお、全体を通しては、救援・復興支援室ボランティア支援班員及び遠野分室職員からの連絡事項や指示に従ってください。

- (3) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地等の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険（天災Bプラン推奨）」に加入するようにしてください。
- (4) 錆びた釘によるケガで破傷風に罹患したり、インフルエンザ等の感染症に罹患した等の例があります。可能な限り各自で予防接種を受けるようにしてください。（地域の診療所等でお受けください。破傷風については本学の本郷地区保健センターでも実施しています。なお、予防効果には相応の期間や回数が必要な場合がありますのでご注意ください。）
- (5) 参加に際し、学生は「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ、教職員は「ボランティア活動計画書」を所属部局の総務担当へ、提出してください。
なお、岩手県の対象地域（三陸沿岸周辺地域及び遠野市）でボランティア活動を行う際に救援・復興支援室に提出をお願いしている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。
- (6) 事前に説明会を開催しますので、ご出席ください。開催日時は、参加決定通知とともに E-mail で連絡いたします。

※ 以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項は、本学ウェブサイトの「Q&A」を参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/index_j.html

13 応募方法・締切等

別紙の「ボランティア申込書」に必要事項を記入の上、締切日7月12日（金）（その時点で各班の募集人員に満たない場合は、延長する場合があります。）までに、下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あて E-mail 又は FAX によりお送りください。

参加の可否は、追ってご本人あてに E-mail（決定通知書）で連絡いたします。

14 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班
（学生支援センター地下1階 学生支援課内）

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529（内線22529）

(2) お知らせ

～東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班から お知らせ～

平成25年度 夏季ボランティア隊募集

現在予定している内容は次のとおりです。

●活動日程：

第1班 平成25年8月9日(金)～8月12日(月) <3泊4日(うち車中1泊)>

第2班 平成25年8月23日(金)～8月26日(月) <3泊4日(うち車中1泊)>

●活動場所：

岩手県陸前高田市又は釜石市(予定)

●活動内容：

現地のニーズや時の経過によって、活動の内容・状況の変化が予想されます。

一般的には、被災地域のがれき除去・清掃作業、被災児童・生徒の学習支援、仮設住宅等での各種サポート活動等が想定されますが、具体的な活動内容は被災地の連携団体に委ねることになります。

なお、天候不良等により活動が中止になる場合は、場所を変更しての活動等を予定していません。

●応募資格：

本学の学生(保護者の承諾が必要)及び教職員で、本学の支援活動の理念等に賛同し組織的な復興支援活動ができる方。

●募集人数：各班40名程度

●宿泊場所：

遠野市大日地区(15区)コミュニティ消防センター／各班の男子

同 大日地区(4区)コミュニティ消防センター／各班の女子

●募集締切：7月12日(金) ※募集人数に達し次第締め切ります。

※大学による支援内容は、宿泊場所の確保、東京～宿泊場所～活動場所の移動手段の確保です。

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載していますのでご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】

東京大学救援・復興支援室 ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階 本部学生支援課内)

E-mail：volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX：03-5841-2519

TEL：03-5841-2529 (内線22529)



(3) 参加者のしおり (抜粋)

1. 平成25年度夏季ボランティア隊の参加に当たって

この度の「夏季ボランティア隊」は、大学が力を入れて取り組んでいる東日本大震災にかかる被災地の復興・再生に向けての支援活動の一環として、特定非営利活動法人パクト (通称 P@CT) の陸前高田市復興サポートステーション等との連携の下に、本学の学生及び教職員により被災地におけるボランティア活動を行おうというものです。

具体的には、夏季の休業期間に、岩手県遠野市を拠点として、陸前高田市におけるガレキ撤去・整備、および学習支援等を行う予定ですが、実際の活動に際しては隊長・副隊長の統括の下、連携先の担当者の指示やボランティア支援班員 (随行者) 及び遠野分室職員からの連絡事項・指示に従ってください。

また、このボランティア隊は大学が企画し派遣するものですが、基本的にはボランティアの理念に沿って自己責任、自己完結が原則となりますので、事前準備や安全・健康管理に十分ご留意をお願いします。

※ (関係団体)

- ・ 特定非営利活動法人パクト (通称 P@CT)

URL : <http://pact-rt311.org>

- ・ SAVE IWATE

URL : <http://sviwate.wordpress.com/>

- ・ 子どものエンパワメントいわて

URL : <http://www.epatch.jp/>

2. 活動期間

第1班 平成25年8月 9日(金)～8月12日(月) <3泊4日(うち車中1泊)>

第2班 平成25年8月23日(金)～8月26日(月) <3泊4日(うち車中1泊)>

※ 各班とも、最終日は早朝 (6時頃) に東京大学本部棟前に到着予定です。

3. 活動日程

※ 道路事情や天候等により変更になる場合があります。

第1日目

- 7：30 集合（東京大学本部棟前）
- 8：00 出発
車中又は休憩所にて昼食（各自負担）、適宜休憩
- 17：00 遠野市着
大型スーパーで夕食及び翌朝食等の買出し
入浴施設にて入浴
- 19：00 宿泊場所（遠野市コミュニティ消防センター）へ到着
（遠野東大センターで鍵の受領）
夕食、連絡事項の伝達、ミーティング等
- 22：00 就寝

第2日目

- 6：00 起床・洗面・朝食・片付け
- 7：15 バスにて宿泊場所を出発
- 8：20 陸前高田市復興サポートステーション（受付）
- 9：00～15：00 活動に従事（昼食）
- 16：30 遠野市へ到着
入浴施設にて入浴
大型スーパーで夕食及び翌朝食等の買出し
- 19：30 宿泊場所へ到着
夕食、連絡事項の伝達、ミーティング等
- 22：00 就寝

第3日目

- 6：00 起床・洗面・朝食・片付け
- 7：15 バスにて宿泊場所を出発
- 8：20 陸前高田市復興サポートステーション（受付）
- 9：00～15：00 活動に従事（昼食）
- 16：30 遠野市へ到着
入浴施設にて入浴
大型スーパーで夕食及び翌朝食等へ買出し
- 19：30 宿泊場所へ到着

夕食、連絡事項の伝達、ミーティング等
帰り仕度、鍵の返却等

21:30 現地出発（夜行バス）

第4日目

6:00 大学到着・解散

※ 現地への移動手段

「東京～遠野市（往復）」及び「遠野市内～活動場所」の移動は、大学が借り上げるバスで行います。（バス利用に係る参加者の負担はありません。）

※ 雨天の場合は、盛岡市にある SAVE IWATE において活動を行う予定です。

※ 下記の日程においては、班の中から希望する学生8名を分班し、陸前高田市の「学びの部屋」において中学生又は高校生を対象に学習支援活動を行う予定です。

- ・ 8月11日（日）9:00～15:00（8名）【第1班】
- ・ 8月25日（日）9:00～15:00（8名）【第2班】

5. 事前準備と持ち物

1 ボランティア活動について

- 1) 本ボランティア活動については、大学が募集して派遣することになりますが、基本的にはボランティアの理念に沿って**自己責任、自己完結を原則**とします。
- 2) 活動内容は、連携する陸前高田市復興サポートステーション等に委ねることになります。また、勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください。なお、全体を通しては、隊長・副隊長、ボランティア支援班員（随行者）及び遠野分室職員からの連絡事項や指示に従ってください。

2 ボランティア保険への加入について

ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「**災害ボランティア保険（天災Bプラン）**」に加入するようにしてください。加入手続きは、別添資料をご参照ください。

3 予防接種について

錆びた釘によるケガで破傷風に罹患したり、感染症に罹患した等の例があります。必要に応じて、各自で予防接種を受けるようにしてください。

4 大学への届出

参加に際し、学生は「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ、教職員は「ボランティア活動計画書」を所属部局の総務担当へ、提出してください。

(様式は東京大学「ボランティア情報」HPをご参照ください。)

URL : http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

なお、岩手県の対象地域(三陸沿岸周辺地域及び遠野市)にて活動を行う際に救援・復興支援室に提出をお願いしている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

5 持ち物

1) 大学が用意するもの

寝具、ビブス(大学名入りベスト)、名札、
手袋(軍手)、防塵マスク、大ビニール袋

2) 個人が用意するもの

・〈必需品〉

- 作業着(長袖、長ズボン)
- 着替え
- 洗面用具
- 入浴用品
- タオル
- マスク
- ゴム手袋(厚手)
- 上下カッパ(雨具)
- 帽子
- 安全靴・長靴(踏抜き防止用スチール製中敷き含)
- 履き替え用の靴
- 水筒又はペットボトル
- 保険加入カード(ボランティア保険への加入がわかるもの)
- 現金

・〈その他〉

- 携帯電話(充電器含)
- 時計
- 学生証又は身分証明証

- 健康保険証
- 各自必要な薬品等
- ウェットティッシュ
- 小物ポーチ



(4) 活動報告

平成25年8月29日

平成25年度「夏季ボランティア隊」の活動報告

このたび、東日本大震災の被災地支援活動の一環として、岩手県陸前高田市復興サポートステーション（NPO法人P@CT運営）との連携の下に、本学の学生及び教職員による「夏季ボランティア隊」の参加者を募り、岩手県遠野市を拠点として陸前高田市において復興支援活動を行った。

夏季ボランティア隊は、2班編成でそれぞれ3泊4日（うち車中1泊）の日程で参加者を募集し、募集数を上回る多数の応募者の中から原則として応募順に参加者を決定し、総勢80名を派遣した。

【第1班】 合計41名（学生24名、教職員17名／男性30名、女性11名）

日程：平成25年8月9日（金）～8月12日（月）〔3泊4日（うち車中1泊）〕

宿泊場所：遠野市大日地区4区・15区コミュニティ消防センター

活動場所：陸前高田市内の被災地区

8月9日（金）（貸切バスによる移動日）

8月10日（土） ・陸前高田市被災地区の側溝の草刈り及び土出し作業 41名
活動時間 9：00～15：30

8月11日（日） ・陸前高田市被災地区の側溝の草刈り及び土出し作業 35名
活動時間 9：00～15：30

・陸前高田市「学びの部屋」での学習支援活動 6名（学生）
活動時間 9：00～16：00

8月12日（月）帰着



出発時に本部棟前にて



作業説明（サポートステーションにて）



被災地区での作業開始



被災地区での側溝の土出し(1)



被災地区での側溝の土出し(2)



生活用品・遺品とガレキの区分け

【第2班】 合計39名（学生30名、教職員9名／男性28名、女性11名）

日程：平成25年8月23日（金）～8月26日（月）〔3泊4日（うち車中1泊）〕

宿泊場所：遠野市大日地区4区・15区コミュニティ消防センター

活動場所：陸前高田市内の被災地区

8月23日（金）（貸切バスによる移動日）

8月24日（土） ・ 陸前高田市被災地区での側溝の草刈り及び土出し作業 39名
活動時間 9：00～15：30

8月25日（日） ・ 陸前高田市被災地区での側溝の草刈り及び土出し作業 33名
活動時間 9：00～15：00

※ 活動終了後、大槌町沿岸被災地域の見学。

・ 陸前高田市「学びの部屋」での学習支援活動 6名（学生）
活動時間 9：00～16：00

8月26日（月） 帰着



出発時に本部棟前にて



作業説明（サポートステーションにて）



まずは草刈りから



被災地区での側溝の土出し(1)



被災地区での側溝の土出し(2)



側溝がきれいになった

【近隣の様子】



作業場近くの海岸で



作業場近くの「奇跡の一本松」



大槌市役所の今・・・

2. 岩手県陸前高田市「学びの部屋」

学習支援ボランティアの派遣

平成25年6月～7月、9月、10月～12月、年末年始、平成25年2月の各期間に、学生による学習支援ボランティアを、岩手県陸前高田市へ派遣した。

【6～7月学習支援ボランティア】

(1) 募集要項（初回分のみ掲載）

平成25年5月9日

学生の皆さんへ

救援・復興支援室ボランティア支援班

岩手県陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア（6～7月）の募集について

東京大学では、東日本大震災による災害からの復興・再生に向けて、大学全体で支援活動の取り組みを進めているとともに、学生や教職員が自主的・自発的な支援活動を展開しています。

このたび昨年からの活動に引き続き、岩手県陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわてが主催する学習支援事業「学びの部屋」に協力し、被災児童生徒を対象とした学習支援活動を行う、学生ボランティアを募集します。

下記の内容をご覧ください、積極的な応募をお願いします。

1 活動日・活動時間等

(A班) 平成25年 6月 8日(土)～6月 9日(日) <1泊2日>

(B班) 平成25年 6月22日(土)～6月23日(日) <1泊2日>

(C班) 平成25年 7月13日(土)～7月14日(日) <1泊2日>

(D班) 平成25年 7月27日(土)～7月28日(日) <1泊2日>

※ 活動日程（変更になる場合があります。）

第1日目 16:00 各自で遠野東大センター（宿泊場所）に集合
伝達事項、夕食、入浴、ミーティング等

第2日目 7:30 送迎車により遠野東大センターを出発

9:00～15:00 活動（昼食持参）

17:30 送迎車によりJR一ノ関駅に到着・解散

2 活動場所・内容

岩手県陸前高田市内4箇所の小・中学校の教室を利用し、自習を基本とする児童生徒の学習をサポートする。

なお、具体的な活動内容は、陸前高田市教育委員会及び一般社団法人「子どものエンパワメントいわて」に委ねていますので、原則としてその指示に従ってください。

※市職員の学習支援員並びに岩手県立大学等の学生ボランティアと共に、サポート活動を行う。

3 募集人員

各班8名程度。

4 応募資格

本学の学生（保護者の承諾が必要）で、本学の支援活動の理念等に賛同する者。

※中学生に対して日本語による5教科（国語、社会、数学、理科、英語）の学習支援が可能な学生。

※本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ホームページを参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_01_policy_j.html

5 宿泊場所

東京大学救援・復興支援室遠野センター（遠野東大センター）

※寝具は、大学で用意しますので、参加者の負担はありません。

6 移動手段等

第1日目 東京～遠野市／各自、JRあるいは長距離バス等を利用（遠野市集合）

第2日目 遠野市～陸前高田市／送迎車

陸前高田市～JR一ノ関駅／送迎車（一ノ関駅解散）

JR一ノ関駅～JR東京駅／各自、JR等を利用

※遠野市～陸前高田市～一ノ関の送迎車は、大学で用意しますので、参加者の負担はありません。

※東京～遠野、一ノ関～東京の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする実費額が補助されます。（詳細は本学ボランティア情報HPをご覧ください。http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_02_shienkin_j.html）

7 生活環境

- ・ 宿泊 遠野東大センターの小部屋又は大部屋を利用。寝具は用意されています。
- ・ 入浴 宿泊場所にユニットバスがあります。
遠野市内に銭湯（有料）があります。

- ・ 食事 各自準備してください(遠野市内にスーパー、食堂、コンビニ等あり)。
宿泊場所に給湯設備がありますが、料理はできません。

8 持ち物

- 〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴用品、タオル、ボランティア保険加入が分かるもの
(加入カード、加入証等)、現金(食事・飲み物、交通費、他)
- 〈その他〉携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他
※腕章、ネームケース、救急箱、生活消耗品は、大学で用意しています。

9 注意事項等

- (1) 活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。
- (2) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地等の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」に加入するようにしてください。
- (3) 参加に際し、「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。
なお、三陸沿岸周辺地域及び遠野市においてボランティア活動を行う際に提出することとなっている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

※以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項等は、本学ボランティア情報HPの「災害ボランティアQ&A」を参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_04_QA_j.html

10 応募方法等

別紙の「ボランティア活動申込書」に必要事項を記入の上、締切日5月24日(金)までに下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あて、E-mail 又はFAXによりお送りください。

参加の可否及び活動の詳細の説明については、追って申込書記載の連絡先あてに連絡します。なお、募集人員に達し次第、募集を終了いたします。

11 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班(学生支援センター地下1階 学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529 (内線22529)

(2) お知らせ

現在予定している内容は次のとおりです。

●活動日程:
(A) 平成25年6月8日(土)～6月9日(日)〈1泊2日〉
(B) 平成25年6月22日(土)～6月23日(日)〈1泊2日〉
(C) 平成25年7月13日(土)～7月14日(日)〈1泊2日〉
(D) 平成25年7月27日(土)～7月28日(日)〈1泊2日〉

●活動場所: 岩手県陸前高田市内の小・中学校の教室
●活動内容: 中学校等生徒の学習をサポート
●募集人数: 各日程 8名程度
●宿泊場所: 遠野東大センター
●募集締切: 5月24日(金)
(募集人員に達し次第、募集を終了します。)

※大学による支援内容は以下のとおりです。
・交通費 (ボランティア活動支援金による後払い: 上限2万円)
・宿泊場所の確保
・現地での移動手段の確保

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】
東京大学教養・復興支援ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階学生支援課内)
E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
FAX 03-5841-2519
TEL 03-5841-2529
(内線22529)

(3) 参加者のしおり (初回分のみ掲載)

1. 学習支援ボランティアの参加に当たって

○学習支援ボランティア活動

「学びの部屋」は、「陸前高田市教育委員会」及び「一般社団法人子どものエンパワメントいわて」が主催する事業で、東日本大震災で被災した子どもたちが安心して過ごせる空間を提供する場所です。今回の学習支援ボランティア活動は、その学びの部屋において、自習を基本とする中高校生の学習サポートをするもので、市職員の学習支援員並びに岩手県立大学等の学生ボランティアと共に活動していただきます。

活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。

また、活動内容については、陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわてに委ねています。

- ※ 本ボランティア活動については、大学が募集して派遣することになりますが、基本的にはボランティアの理念に沿って**自己責任、自己完結**を原則とします。
- ※ 活動内容は、連携する「陸前高田市教育委員会」及び「一般社団法人子どものエンパワメントいわて」に委ねることになりますので、担当の方及び遠野分室職員からの連絡事項や指示に従ってください。勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください。
- ※ 一般社団法人「子どものエンパワメントいわて」については、HP (<http://www.epatch.jp/>) や、配布した「学びの部屋新聞」等を参照ください。

2. 活動期間

A 班	平成 25 年 6 月 8 日(土) ~ 6 月 9 日(日)	<1 泊 2 日>
B 班	平成 25 年 6 月 22 日(土) ~ 6 月 23 日(日)	<1 泊 2 日>
C 班	平成 25 年 7 月 13 日(土) ~ 7 月 14 日(日)	<1 泊 2 日>
D 班	平成 25 年 7 月 27 日(土) ~ 7 月 28 日(日)	<1 泊 2 日>

3. 活動日程

【1日目】

16:00 宿泊場所（遠野東大センター）集合

夕食(各自用意)、入浴

ミーティング等

※ 集合時間 (16:00) 厳守です。

※ 16:00 から遠野東大センターの利用について職員から説明があります。また、利用に関する説明書も置いてありますのでご覧ください。

※ 施錠・火の用心についてはご注意ください。

※ 1 日目のうちに翌日の朝食及び昼食を各自用意してください。なお、遠野東大センター付近のスーパー「三丸屋」では、前日に予約しておくことで昼食の弁当(500 円)の調達が可能です。

※ 入浴は、遠野東大センター内のユニットバスを交代で使用するか、遠野駅付近の銭湯「亀の湯」をご利用ください。

宿泊場所付近の食事・入浴施設の情報は p.5 の地図を参照ください。

22:00 就寝

【2日目】

6:30 起床・朝食・片付け/帰り支度

※ 現地（遠野東大センター～陸前高田市活動場所～一ノ関駅）のボランティア活動にかかる移動手段（送迎用車）は大学で手配します。

※ 帰りは遠野東大センターには戻りませんので、朝の出発前に清掃、ゴミの分別の再確認をし、消灯・施錠を確実に行ってください。

7:30 送迎用車により遠野東大センターを出発（帰り荷物の積込）

※ 帰りは一ノ関駅から東京へ帰るため、帰り支度をして車に乗り込んでください。

※ 活動場所へは以下の物を持って行ってください。

□救急バッグ □腕章 □デジカメ □名札 □昼食 □飲み物

デジタルカメラを1台貸し出しますので、活動の様子を10枚以上撮影（1台しかありませんので、どこか一箇所の撮影でかまいません）してください。撮影の際は現地の方の許可を得た上で行ってください。また、活動中はデジタルカメラを放置せず、大切に扱ってください。

8:45 陸前高田市「学びの部屋」活動場所に到着

※ 送迎用バスの運転手に帰りの集合時間、集合場所を必ず確認してください。

9:00 学習支援活動

※ 活動内容については現地の学習支援員（陸前高田市職員）の指示に従ってください。

※ 活動中は東京大学の腕章をつけてください

（回収時に腕章の番号を確認しますので、管理に気をつけてください）。

15:00 学習支援活動終了

17:30 送迎用車によりJR一ノ関駅へ到着、解散

※ 救急バッグ・腕章・デジカメ・名札ケースは帰りの車の中に置いたままにしてください。

5. 事前準備と持ち物

1. ボランティア保険への加入

ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、自治体の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」(東京都:1000 円) に加入するようにしてください。加入手続きの詳細および本郷キャンパス付近のボランティアセンターの場所は p.22-25 を参照ください。

2. 大学への届出

参加に際し、学生は「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。様式は配付した資料の中にあります。また、下記 URL からダウンロードできます。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_05_todokede_j.html

なお、岩手県の対象地域(三陸沿岸周辺地域及び遠野市)にてボランティア活動を行う際に救援・復興支援室に提出をお願いしている「立ち入りの届出様式」については、本件参加者は不要です。

3. 持ち物

【必需品】 着替え、洗面用具、入浴用品、タオル、

ボランティア保険加入がわかるもの(加入カード又は加入証等)、現金

【その他】 携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

※自分の持ち物は、責任を持って管理しましょう。

4. 食事・入浴

食事の費用は自己負担となりますので、ご用意をお願いします。また、活動日の朝食・昼食は前日のうちに周辺のスーパーなどで調達してください。入浴については、遠野東大センターにシャワー設備が1つありますので、ご利用ください(p.2, p.5も参照ください)。

6. 活動から帰ったら

1. ボランティア活動報告書

活動後、ボランティア活動報告書を**必ず提出してください**。今後の本学の学習支援ボランティアの参考資料とさせていただきます。

2. 写真

ボランティア支援班で用意したデジタルカメラ以外で写真を撮影した場合は、差支えない範囲で写真を提供願えると幸いです。写真もボランティア活動報告書と同様に今後の参考資料とするほか、大学の活動報告として本学ホームページ等に掲載することがありますのでご了承ください。具体的な受け渡し方法は、後日連絡いたします。

3. ボランティア活動支援金

東京→遠野および一ノ関→東京の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を申請することにより、2万円を上限とする実費額が補助されます(別紙参照)。

また、ボランティア活動支援金は原資に限りのある制度ですので、今後ボランティア活動に参加する学生のためにもできるだけ学割を利用するなどし、低廉な交通費での申請をお願いします。申請のためには交通費の領収書等が必要になりますので、往路・復路ともに紛失しないようご注意ください。ただし、迂回・途中下車等をした場合は減額される可能性があります。

提出先

(1) 窓口に直接提出する場合

本郷キャンパス窓口：学生支援センター地下1階 本部学生支援課

駒場キャンパス窓口：アドミニストレーション棟1階 教養学部等学生支援課

柏キャンパス窓口：新領域創成科学研究科 教務係

(2) 郵送で提出する場合

〒113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1 学生支援センター地下1階

東京大学ボランティア支援班 宛

(3) メールで提出する場合

ボランティア支援班 volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp まで

※ボランティア活動支援金の申請はメールでは提出できません

7. 注意事項等

活動するに当たっての心構え

【全般】

- (1) ボランティア活動は自己責任・自己完結が原則です。
事前に自分自身でも十分な情報収集・確認を行い、活動場所での飲み物、食べ物、常備薬、適切な服装、保険等、必要な備えをして被災地に入りましょう。
- (2) 復旧や復興の主役は被災された方です。
ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。
- (3) 被災された方と話をする際は、相手と同じ目の高さに自分の姿勢を合わせて、自然に接することを心がけましょう。
- (4) 仲間内の話での笑い声が、被災された方の誤解を招くこともあります。言動などへの気配りを忘れないようにしましょう。
- (5) 写真やビデオ撮影をする場合は、被災された方や被災地の気持ちを配慮して行うようにし、被災された方が特定できる写真は、その方の了解を得てから撮影しましょう。
- (6) 団体行動が原則となります。仲間とよく話し合い、一人で活動を抱え込まないようにしましょう。また、単独での行動は避けましょう。
- (7) 被災された方の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことは避けましょう。また、必要以上に自分の経験や考えを振りかざすことは避けましょう。
- (8) ボランティア活動は、やってあげるのではありません。
自分のやりたいことをやるのではなく、できることをやらせてもらおうと心得ましょう。

【安全面】

- (9) 活動するためには災害保険への加入が必須です。
お住まいの地域の社会福祉協議会で加入できますので、事前に各自で「**災害ボランティア保険（天災Bプラン）**」（東京都の場合は1000円）に加入してください（参考資料参照）。

- (10) 自分の体調を見極めましょう。調子が悪い時は「活動しない」も選択肢です。
おかしいと感じたら、活動をやめてリーダーに伝えましょう。

【学習支援ボランティア】

- (11) 公の活動であるため、本学の学生として言動や行動に注意しましょう。
- (12) 学習をサポートすることと同時に、児童・生徒たちに友達と集まる場所を提供するという意味もあります。レクリエーション企画等を通じて生徒たちと一緒に過ごす時間を楽しみましょう。
- (13) 問題の正誤だけではなく、学習の方法についても注意し、自立した学習の形成を促すようにしましょう。
- (14) 家庭での学習方法に配慮し、日頃の生活も含めた心のケアを行うよう努めましょう。
- (15) 活動後は、今後の本学の学習支援ボランティアに活かすため、ボランティア活動報告書を提出してください。

地震発生時の注意事項

【バス乗車時に地震が発生したら】

- (1) 走行中に地震が発生した場合、運転手の判断により車を路肩に停車させますが、運転手の指示に従って車内で待機してください。
- (2) 地震が収まり、運転手の指示により車外で待機する場合には、バスの前方の路肩で待機してください。特に高速道路では、むやみに走行車線に出ると危険ですので、決して走行車線には出ないでください。

【ボランティア活動中に地震が発生したら】

- (3) 活動場所に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。
- (4) 屋外で活動中に地震が発生したら、頭上の落下物の危険のない場所へ退避してください。
揺れが収まりましたら、地元の防災無線による指示等に従ってください。
- (5) 沿岸地域で活動中の場合には、揺れが収まりましたら地元指定の高台の避難所へ退避してください。避難経路や避難場所が不明の場合には、最寄りの裏山やコンクリート製の高層建物（できれば4階以上が望ましい）に避難してください。

- (6) 体育館等の避難所で活動中に地震が発生したら、天井構築物や照明器具等の落下に注意するとともに、避難所責任者の指示に従ってください。
- (7) 余震が想定される場合には、揺れが収まってから屋外に退避してください。
- (8) 自身の安全確保と同時に、子供や高齢の避難者の誘導等にも心がけてください。

【遠野東大センターで地震が発生したら】

- (9) 遠野東大センターに到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。
- (10) 台所でコンロを使用中の場合には、直ちに火を止めてください。その際、やけどをすることのないよう、注意してください。
- (11) 万一、火災が発生してしまったら、直ちに備え付けの消火器を使用して初期消火に努めてください。同時に、消防署（119番）へ緊急連絡を行ってください。
- (12) 余震が想定されるようでしたら、揺れが収まった後、外へ退避してください。
- (13) 遠野市の防災無線による指示がありましたら、落ち着いてその指示に従ってください。

※ 東北地方では、今も余震が度々発生していますので、地震や津波に十分注意して行動してください。

遠野東大センターの利用について

1. 利用できるセンターの施設

- (1) 研究個室3部屋（各7.49 m²）
- (2) 研究オフィス3ブロック（17.34 m²、13.78 m²、13.95 m²）
- (3) その他（給湯室・冷蔵庫・洗面所・洗濯機・トイレ・ユニットバス等）

2. 利用上の注意事項

- (1) 遠野東大センターの出入口は「2階」を使用し、ナンバー錠で管理しております。
- (2) 利用した設備、備品等は利用後、速やかに原状に戻してください。
- (3) 他の利用者に迷惑を及ぼすような行為はしないでください。
- (4) 遠野分室の職員から指示があった場合には、必ずその指示に従ってください。

3. 無線LAN使用について

- (1) 学内LANが使用可能です。
- (2) 2階電話機横の「無線LAN使用簿」に記入の上、「無線APドキュメント」を参照し使用してください。
- (3) センター内のパソコン（3台）は利用可能ですので、共有して使用してください。

4. 複合機 (プリンター) の使用について
 - (1) コピーは認証機能なく使用可能です。
 - (2) プリンターとして使用する場合 (WIN.Mac) 、プリンタドライバのインストールが必要となりますので、インストールマニュアルを参照し使用してください。

5. 掃除について
東京大学の共同利用の施設ですので、必ず毎日掃除を行いきれいに利用してください。
ゴミは、センター内に設置されたゴミ箱に捨ててください。
遠野市のごみの分別は東京と異なりますので、指示どおりに分別して捨ててください。

6. 寝具について
寝具 (羊毛掛布団・毛布・羊毛敷布団・枕) を1階事務室に用意しております。朝晩は冷え込む事がありますので、温かく睡眠できるよう各自準備してください
なお、使用後は1階事務室まで返却し、使用後のリネン (枕カバー・シーツ) は「2階洗濯機の上」に置いてください。(クリーニングします)

7. センターに宿泊する場合の注意事項
センターは一般住宅地にありますので、騒音を発しないようお願いいたします。
また、未成年者は絶対に飲酒しないこと、成人であっても飲みすぎないように注意してください。

8. その他
その他不明な点等ありましたら、ボランティア支援班 (080-2373-1881, 1882) または遠野分室職員 (080-1012-9827) まで問合せ願います。

8. こんな時はどうする (Q&A)

【目次】

- Q-1. 急に参加できなくなった時は？
- Q-2. 急に帰京しなければならなくなった時は？
- Q-3. 活動場所に忘れ物をした時は？
- Q-4. 活動中に地震が発生した時は？
- Q-5. 活動中に負傷した時の補償は？
- Q-6. 活動中に自分の持ち物が第三者に壊されてしまった場合、補償は受けられる？
- Q-7. 負傷して入院することになった場合はどうなる？
- Q-8. パソコンを持参して使用することはできる？

Q-9. 期間終了後に引き続き現地に滞在してボランティア活動を行いたいが、他の参加者と一緒に帰京しなくてもよい？

Q-10. ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうする？

Q-1. 急に参加できなくなった時は？

A. 遅くとも、出発日の前日(前日等が土・日曜日・休日の場合はその前の平日)の17時までにボランティア支援班事務局までご連絡ください。また、出発当日に参加できなくなった場合は、至急下記の携帯電話までご連絡ください。

Q-2. 急に帰京しなければならなくなった時は？

A. 何らかの緊急の事情により、急に帰京しなければならなくなった場合には、ボランティア支援班職員(080-2373-1881, 080-2373-1882)に連絡をしてからお帰りください。

Q-3. 活動場所に忘れ物をした時は？

A. 遠野分室(080-1012-9827)に連絡し、対応を相談してください。ひとりで取りに行くようなことはしないでください。

Q-4. 活動中に地震が発生した時は？

A. 活動場所へ到着したら、まずは現地の避難経路及び避難場所を確認してください。地震が発生したら、家屋の倒壊、落下物等に注意し、身を守ってください。揺れが収まってから、指定の避難場所へ速やかに移動してください。その際、決して単独行動はしないでください。詳しくは「地震発生時の注意事項(p.11)」をあわせてご覧ください。

Q-5. 活動中に負傷した時の補償は？

A. 天災Bプランに加入している方で支給要件を満たす場合は、社会福祉協議会のボランティア活動保険の補償が受けられます。

補償の例

項目	保険金額
死亡保険金	2000万円
後遺障害保険金	2000万円 (限度額)
入院保険金日額	11000円
通院保険金日額	6370円
賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円 (限度額)

Q-6. 活動中、自分の持ち物が第三者に壊されてしまった場合に補償は受けられる？

A. ボランティア保険は、活動中に自分がけがなどをした場合や、第三者の身体・財物に損害を与えた場合などに補償を受けられるものですが、自分の持ち物が破損等の損害を被

(4) 活動報告

平成25年7月31日

陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア（6～7月）の活動報告

救援・復興支援室では、昨年度から引き続き、岩手県陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわてが主催する学習支援事業「学びの部屋」に協力し、被災した児童生徒等を対象とする学習支援活動を実施している。

今回は、平成25年6～7月の期間に、全4班30名の学生ボランティアを派遣した。

【A班】 参加学生：7名（学部学生6名、大学院学生1名）

日程：平成25年6月8日（土）～6月9日（日）

活動場所：陸前高田市内4個所の小・中学校の教室を利用

高田第一中学校、横田中学校、米崎小学校、広田小学校

（1日目）6月8日（土）移動日：遠野東大センターに集合、ミーティング等

（2日目）6月9日（日）活動9：00～15：00

※ 活動終了後、JR一ノ関駅にて解散

【B班】 参加学生：8名（学部学生5名、大学院学生3名）

日程：平成25年6月22日（土）～6月23日（日）

活動場所：陸前高田市内4個所の小・中学校の教室を利用

高田第一中学校、横田中学校、米崎小学校、広田小学校

（1日目）6月22日（土）移動日：遠野東大センターに集合、ミーティング等

（2日目）6月23日（日）活動9：00～15：00

※ 活動終了後、JR一ノ関駅にて解散

【C班】 参加学生：7名（学部学生2名、大学院学生5名）

日程：平成25年7月13日（土）～7月14日（日）

活動場所：陸前高田市内4個所の小・中学校の教室を利用

高田第一中学校、横田中学校、米崎小学校、広田小学校

（1日目）7月13日（土）移動日：遠野東大センターに集合、ミーティング等

（2日目）7月14日（日）活動9：00～15：00

※ 活動終了後、JR一ノ関駅にて解散

【D班】 参加学生：8名（学部学生8名、大学院学生0名）
日程：平成25年7月27日（土）～7月28日（日）
活動場所：陸前高田市内4箇所の小・中学校の教室を利用
高田第一中学校、横田中学校、米崎小学校、広田小学校
（1日目）7月27日（土）移動日：遠野東大センターに集合、ミーティング等
（2日目）7月28日（日）活動9：00～15：00
※ 活動終了後、JR一ノ関駅にて解散



【9月学習支援ボランティア】

(1) お知らせ



学習支援ボランティア募集 @陸前高田市「学びの部屋」(9月)

現在予定している内容は次のとおりです。

陸前高田市「学びの部屋」とは…

東日本大震災によって、学習環境を失った子どもたちが安心して過ごせる三間（サンマ：空間、時間、仲間）を提供する場所です。

この事業は、「陸前高田市教育委員会」および「一般社団法人子どものエンパワメントいわて」が主催しています。



●活動日程:

(A) 平成25年9月17日(火)～9月20日(金)<3泊4日>

(B) 平成25年9月24日(火)～ 9月27日(金)<3泊4日>

※今回は「スリーデイズプログラム」と称し、各日程とも、学習支援活動は3日間で最終日は移動日となります。

●活動場所：岩手県陸前高田市内の小・中学校の教室

●活動内容：中学校等生徒の学習をサポート

●募集人数：各日程 8名程度

●宿泊場所：遠野東大センター

●募集締切：8月30日(金) (募集人員に達し次第、募集を終了します。)

※大学による支援内容は以下のとおりです。

- ・交通費（ボランティア活動支援金による後払い：2万円上限）
- ・宿泊場所の確保
- ・現地での移動手段の確保

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】

東京大学教養・復興支援室ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階本部学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529

(内線22529)

(2) 活動報告

平成25年10月1日

陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア（H25.9）活動報告

陸前高田市「学びの部屋」の学習支援は、陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわてとの連携により、同市の被災した中学校生徒等を対象とした学習支援活動で、平成23年12月からこれまで継続して実施している。

今回は、9月に開催の1回当たり3泊4日の日程で行う学習支援事業（スリーデイズプログラム）に、全2班14名の学生ボランティアを派遣し実施した。

【A班】 参加学生：7名（学部学生5名、大学院学生2名）

日程：平成25年9月17日(火)～9月20日(金)

宿泊場所：遠野東大センター

活動場所：陸前高田市内の小・中学校の教室を利用

活動内容：中学生への個別学習サポート

※ 各日の活動前に、市内「ヤルキタウン」においてミーティング。

(1日目) 9月17日(火) 活動18:30～21:00

高田第一中学校(参加生徒17名)

米崎小学校(参加生徒3名)

(2日目) 9月18日(水) 活動18:30～21:00

高田第一中学校(参加生徒18名)

米崎小学校(参加生徒3名)

(3日目) 9月19日(木) 活動18:30～21:00

高田第一中学校(参加生徒20名)

米崎小学校(参加生徒3名)

(4日目) 9月20日(金) 移動日(活動なし)

【B班】 参加学生：7名（学部学生4名、大学院学生3名）

日程：平成25年9月24日(火)～9月27日(金)

宿泊場所：遠野東大センター

活動場所：陸前高田市内の小・中学校の教室を利用

活動内容：中学生への個別学習サポート

※ 各日の活動前に、市内「ヤルキタウン」においてミーティング。

(1日目) 9月24日(火) 活動18:30～21:00

高田第一中学校(参加生徒9名)

米崎小学校(参加生徒4名)

(2日目) 9月25日(水) 活動18:30～21:00

高田第一中学校(参加生徒7名)

米崎小学校(参加生徒4名)

(3日目) 9月26日(木) 活動18:30~21:00

高田第一中学校(参加生徒15名)

米崎小学校(参加生徒4名)

(4日目) 9月27日(金) 移動日(活動なし)



【10～12月学習支援ボランティア】

(1) お知らせ



★ 学習支援ボランティア募集 @ 陸前高田市「学びの部屋」(10月～12月)

現在予定している内容は次のとおりです。

陸前高田市「学びの部屋」とは…

東日本大震災によって、学習環境を失った子どもたちが安心して過ごせる三間（サンマ：空間、時間、仲間）を提供する場所です。

この事業は、「陸前高田市教育委員会」および「一般社団法人子どものエンパワメントいわて」が主催しています。

●活動日程:

- (A) 平成25年10月19日(土)～10月20日(日)＜1泊2日＞
- (B) 平成25年11月 2日(土)～11月 3日(日)＜1泊2日＞
- (C) 平成25年11月16日(土)～11月17日(日)＜1泊2日＞
- (D) 平成25年11月30日(土)～12月 1日(日)＜1泊2日＞
- (E) 平成25年12月14日(土)～12月15日(日)＜1泊2日＞

●活動場所：岩手県陸前高田市内の小・中学校の教室

●活動内容：中学校等生徒の学習をサポート

●募集人数：各日程 8名程度

●宿泊場所：遠野東大センター

●募集締切：9月30日(月) (募集人員に達し次第、募集を終了します。)

※大学による支援内容は以下のとおりです。

- ・交通費（ボランティア活動支援金による後払い：2万円上限）
- ・宿泊場所の確保
- ・現地での移動手段の確保

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】

東京大学教養・復興支援室ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階本部学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529

(内線22529)



(2) 活動報告

平成25年12月24日

陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア（10～12月）の活動報告

陸前高田市「学びの部屋」学習支援は、岩手県陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわてとの連携により、同市の被災した児童生徒を対象とした学習支援活動で、平成23年12月から継続的に実施しており、今回は、平成25年10～12月の期間に、全5班37名の学生ボランティアを派遣した。

【A班】 参加学生：8名（学部学生2名、大学院学生6名）

日程：平成25年10月19日（土）～10月20日（日）

活動場所：陸前高田市内の小・中学校の教室を利用

高田第一中学校、米崎小学校、広田小学校

（1日目）10月19日（土）移動日：遠野東大センターに集合、ミーティング等

（2日目）10月20日（日）活動9：00～15：00

参加生徒6名

【B班】 参加学生：7名（学部学生5名、大学院学生2名）

日程：平成25年11月2日（土）～11月3日（日）

活動場所：陸前高田市内の小・中学校の教室を利用

高田第一中学校、米崎小学校、広田小学校

（1日目）11月2日（土）移動日：遠野東大センターに集合、ミーティング等

（2日目）11月3日（日）活動9：00～15：00

参加生徒7名



【C班】 参加学生：8名（学部学生2名、大学院学生6名）
日程：平成25年11月16日（土）～11月17日（日）
活動場所：陸前高田市内の小・中学校の教室を利用
高田第一中学校、米崎小学校、広田小学校
（1日目）11月16日（土）移動日：遠野東大センターに集合、ミーティング等
（2日目）11月17日（日）活動9：00～15：00
参加生徒14名

【D班】 参加学生：7名（学部学生4名、大学院学生3名）
日程：平成25年11月30日（土）～12月1日（日）
活動場所：陸前高田市内の小・中学校の教室を利用
高田第一中学校、米崎小学校、広田小学校
（1日目）11月30日（土）移動日：遠野東大センターに集合、ミーティング等
（2日目）12月1日（日）活動9：00～15：00
参加生徒11名

【E班】 参加学生：7名（学部学生5名、大学院学生2名）
日程：平成25年12月14日（土）～12月15日（日）
活動場所：陸前高田市内の小・中学校の教室を利用
高田第一中学校、広田小学校
（1日目）12月14日（土）移動日：遠野東大センターに集合、ミーティング等
（2日目）12月15日（日）活動9：00～15：00
参加生徒12名*

【年末年始学習支援ボランティア】

(1) お知らせ



★ 学習支援ボランティア募集 @陸前高田市「学びの部屋」(年末年始)

現在予定している内容は次のとおりです。

陸前高田市「学びの部屋」とは…

東日本大震災によって、学習環境を失った子どもたちが安心して過ごせる三間(サンマ:空間、時間、仲間)を提供する場所です。

この事業は、「陸前高田市教育委員会」および「一般社団法人子どものエンパワメントいわて」が主催しています。



●活動日程:

- (A) 平成25年12月24日(火)～12月27日(金)<3泊4日>
 - (B) 平成26年1月7日(火)～1月10日(金)<3泊4日>
- ※各日程とも、実際の学習支援活動は3日間行います

●活動場所: 岩手県陸前高田市内の小・中学校の教室

●活動内容: 中学校等生徒の学習をサポート

●募集人数: 各日程 6名程度

●宿泊場所: 遠野東大センター

●募集締切: 12月12日(木) (募集人員に達し次第、募集を終了します。)

※大学による支援内容は以下のとおりです。

- ・交通費 (ボランティア活動支援金による後払い:2万円上限)
- ・宿泊場所の確保
- ・現地での移動手段の確保

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】

東京大学教養・復興支援室ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階本部学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529

(内線22529)

(2) 活動報告

平成26年1月14日

陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア（H25年末～H26年始）の活動報告

陸前高田市「学びの部屋」学習支援は、陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわてとの連携により同市の被災した児童生徒を対象とした学習支援活動で、平成23年12月から継続的に実施しており、今回は、平成25年末～平成26年始の期間に全2班11名の学生ボランティアを派遣した。

【年末班】 参加学生：6名（学部学生5名、大学院学生1名）
日程：平成25年12月24日(火)～12月27日(金)
宿泊場所：遠野東大センター
活動場所：陸前高田市内の小・中学校の教室を利用
活動内容：中学生への個別学習サポート

(1日目) 12月24日(火) 移動日：遠野東大センターに集合、ミーティング等

(2日目) 12月25日(水) 活動9：00～15：00（参加生徒12名）
高田第一中学校

(3日目) 12月26日(木) 活動9：00～15：00（参加生徒18名）
高田第一中学校、米崎小学校

(4日目) 12月27日(金) 活動9：00～15：00（参加生徒14名）
高田第一中学校、広田小学校



【年始班】 参加学生：5名（学部学生2名、大学院学生3名）

日程：平成26年1月7日（火）～1月10日（金）

宿泊場所：遠野東大センター

活動場所：陸前高田市内の小・中学校の教室を利用

活動内容：中学生への個別学習サポート

（1日目）1月7日（火）移動日：遠野東大センターに集合、ミーティング等

（2日目）1月8日（水）活動9：00～16：00（参加生徒18名）

高田第一中学校

（3日目）1月9日（木）活動9：00～16：00（参加生徒21名）

高田第一中学校、米崎小学校

（4日目）1月10日（金）活動9：00～15：00（参加生徒14名）

高田第一中学校、広田小学校



【2月学習支援ボランティア】

(1) お知らせ



学習支援ボランティア募集 @陸前高田市「学びの部屋」(2月)



現在予定している内容は次のとおりです。

陸前高田市「学びの部屋」とは…

東日本大震災によって、学習環境を失った子どもたちが安心して過ごせる三間（サンマ：空間、時間、仲間）を提供する場所です。

この事業は、「陸前高田市教育委員会」および「一般社団法人子どものエンパワメントいわて」が主催しています。



- 活動日程:
(A) 平成26年2月18日(火)～2月21日(金)＜3泊4日＞
(B) 平成26年2月25日(火)～2月28日(金)＜3泊4日＞
※各日程とも、実際の学習支援活動は3日間行います

- 活動場所：岩手県陸前高田市内の小・中学校の教室

- 活動内容：中学校等生徒の学習をサポート

- 募集人数：各日程 8名程度

- 宿泊場所：遠野東大センター

- 募集締切：2月5日(水)
(募集人員に達し次第、募集を終了します。)

※大学による支援内容は以下のとおりです。

- ・交通費（ボランティア活動支援金による後払い：2万円上限）
- ・宿泊場所の確保
- ・現地での移動手段の確保

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html



【問合せ先】

東京大学教授・復興支援室ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階本部学生支援課内)

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529

(内線22529)



(2) 活動報告

平成26年3月3日

陸前高田市「学びの部屋」学習支援ボランティア（2月）の活動報告

陸前高田市「学びの部屋」学習支援は、陸前高田市教育委員会及び一般社団法人子どものエンパワメントいわてとの連携により同市の被災した児童生徒を対象とした学習支援活動で、平成23年12月から継続して実施しており、今回は、平成26年2月に、各班3泊4日の日程で行なうスリーデイズプログラムに、全2班15名の学生ボランティアを派遣した。

- 【A班】 参加学生：8名（学部学生3名、大学院学生5名）
日程：平成26年2月18日(火)～2月21日(金)
宿泊場所：遠野東大センター
活動場所：陸前高田市内の小・中学校の教室を利用
活動内容：中学生への個別学習サポート

※ 各日の活動前に、市内「陸前高田まちづくり協働センター」において情報交換会。

- (1日目) 2月18日(火) 活動18:30～21:00
高田第一中学校(参加生徒12名)
横田中学校(参加生徒13名)
米崎小学校(参加生徒3名)
- (2日目) 2月19日(水) 活動18:30～21:00
高田第一中学校(参加生徒12名)
横田中学校(参加生徒15名)
米崎小学校(参加生徒5名)
- (3日目) 2月20日(木) 活動18:30～21:00
高田第一中学校(参加生徒13名)
横田中学校(参加生徒17名)
米崎小学校(参加生徒6名)
- (4日目) 2月21日(金) 移動日(活動なし)





【B班】 参加学生：7名（学部学生5名、大学院学生2名）
日程：平成26年2月25日(火)～2月28日(金)
宿泊場所：遠野東大センター
活動場所：陸前高田市内の小・中学校の教室を利用
活動内容：中学生への個別学習サポート

※ 各日の活動前に、市内「陸前高田まちづくり協働センター」において情報交換会。

(1日目) 2月25日(火) 活動 18:30～21:00

高田第一中学校(参加生徒12名)

横田中学校(参加生徒12名)

米崎小学校(参加生徒5名)

(2日目) 2月26日(水) 活動 18:30～21:00

高田第一中学校(参加生徒15名)

横田中学校(参加生徒11名)

米崎小学校(参加生徒4名)

(3日目) 2月27日(木) 活動 18:30～21:00

高田第一中学校(参加生徒12名)

横田中学校(参加生徒16名)

米崎小学校(参加生徒5名)

(4日目) 2月28日(金) 移動日(活動なし)



【ボランティア参加者の活動報告（抜粋）】

○社会が苦手ということでクイズを通して少しでも苦手意識を克服させてあげようと試みました。ちなみに、その子が来るまで2～3時間の時間があったので、その間は数学と英語のオリジナル問題を作っていました。今回の活動で思ったのは、あらかじめクイズや問題を準備していくと、活動がより充実するということでした。（専門職2年生）

○今回は中学校の定期試験前ということで生徒も多く、3つある自習室のうち、グループ自習室には5～6人、通常の自習室には7～8人、図書室には3～4人いました。生徒は開校と同時に来ていたので、序盤から化学反応式についての質問などがありました。学習支援員の方もたくさんいらしたので、答える上でサポートもしていただきました。（学部2年生）

○主に中学3年生の英語の勉強の手伝い（教科書の内容理解、テスト対策として英語での日記）を行った。人数が少なかった分、丁寧に教えることができ、学校での出来事等についてもいろいろと聞くことができた。広田小は時間・空間を提供するということに加えて、ニーズによっては、学習塾的な機能を果たしていく必要が今後出てくるかなと感じた。（修士2年生）

○9時から高校3年生の女の子が2名来て数学・英語の問題演習を行う。数学は私大の難関校レベルの問題だったためこちらも苦戦したが遠くから来た甲斐を感じられる教え甲斐のあるものだった。朝10時～11時頃の間、高校2年生の男の子が2名来て宿題である古文の問題演習や英語の長文問題をサポートした。2人は仲が良く終始おしゃべりをしていてなかなか腰を据えて勉強する、という雰囲気を作り出せなかったことが後悔である。（学部4年生）

○私の担当生徒は高校生で、数学を扱った。学習進度の速い生徒であり、大学受験を意識した難度の高い演習教材を持ってきていたため一瞬ヒヤリとしたが、分からない部分を一緒に考えていく形式でほぼ問題なく対応できた。流れに応じて生徒自身が興味を持っている大学受験や大学生活、特に東大についての自分自身のエピソードも交えながら話したので、東京から行くことの意味を活かすことができたのではないかと思う。（学部3年生）

○担当した生徒が養護学級に通っていたため、今までに参加したときよりも、勉強というところよりも交流のような部分がメインとなった。しかし、勉強しないというわけではなくて、宿題を終わらせるという目的意識をきちんと持って来ているため、宿題をやりつつ雑談を交えるという形だった。最終的に全ての課題を終えることはできなかったものの、

最後の時間にビンゴゲームなどで交流できてよかったと思う。(修士1年生)

○陸前高田市「学びの部屋」スリーデイズプログラムにて、私は主に陸前高田市立第一中学校にて活動しました。私は、主に中学3年生の女子生徒を担当しました。今回担当した生徒は、学習面はもちろん、それ以外のことでも自分から聞きたいことを聞いてきてくれる生徒であったため、すぐに打ち解けることが出来ました。学習面に関しては、生徒のわからないところを中心に解説しましたが、すぐに答えを教えるのではなく、ヒントを与えながらなるべく自分で考えさせるように心がけました。E-patchの方々や早稲田大学の学生たちとの毎日のミーティングではいろいろと反省点も出ましたが、すぐに改善できる点は今回の活動中にも改善することが出来たと思うし、それ以外の点も今後の活動を行っていく上で生かしていけるといいと思いました。また、個人的にも今回のボランティアは有意義なものだったし、今後も継続的にかかわっていかたいと思いました。(学部2年生)

○中学1年生を2名受け持った。片方の子は集中力も高くよく出来ていたので、あまり声をかけることはせず、間違えたとき等に指摘・アドバイスをするようにした。もう一方の子は翌日英語の単語テストがあるということだったので、口頭で暗記チェックを行い、確認を行った。生徒のためにレク等一生懸命に準備するボランティアの方も居たが、あくまで「脇役」であることを考えるとむしろそこまでしても良いのだろうかと思った。あまりにボランティア側が準備してしまうと生徒の主体性が弱まり、支援員への依存度が高くなってしまわないだろうか。あくまで生徒の勉強したいという気持ちが一番、次に生徒と教師の関係が第一でありボランティアは二の次三の次であるべきではないかと感じた。そうであるならば、被災地周辺の大学生でなく、長時間、安くない費用をかけて東大生が学習支援に赴く意義は何なのだろうか、それを考えながら継続すべきだと思う。(学部4年生)

○私は高田第一中学校を担当し、3年生の女の子の学習をお手伝いしました。初日はお互いに固さがあり、コミュニケーションも十分ではありませんでしたが、2日目、3日目と日がたつにつれてコミュニケーションがとれるようになりました。内容的には、学校の勉強として英語、社会、数学をやり、英検が間近ということでその対策をしました。彼女自身が、とても探究心、好奇心が豊かだったので、原子の話や天体の話など、学校の勉強から離れた深い内容の話もしました。私1人で答えきれないときは、他のボランティアメンバーの助けを借りて対応しました。(専門職2年生)

3. 福島県相馬市「育英館・寺子屋」

学習支援ボランティアの派遣

平成25年5月～6月、7月～8月、9月～10月、11月～12月、平成26年1月～3月にかけて、学生による学習支援ボランティアを福島県相馬市の生涯学習会館、及び応急仮設住宅へ派遣した。

【5～6月学習支援ボランティア】

(1) 募集要項（初回分のみ掲載）

平成25年4月18日

学生の皆さんへ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班

福島県相馬市「寺子屋・相馬育英館」学習支援ボランティア（5～6月）
の募集について

東京大学では、東日本大震災による災害からの復興・再生に向けて、大学全体で支援活動の取組みを進めているとともに、学生や教職員が自主的・自発的な支援活動を展開しています。

このたび昨年度に引き続き、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、相馬市の応急仮設住宅に入居している児童生徒を対象とした「寺子屋・相馬育英館」事業に協力するため、学習支援活動を行う学生ボランティアを募集します。

下記の内容をご覧ください、積極的な応募をお願いします。

1 活動日・活動時間等

- (A班) 平成25年5月18日(土)～5月19日(日)
- (B班) 平成25年5月25日(土)～5月26日(日)
- (C班) 平成25年6月15日(土)～6月16日(日)
- (D班) 平成25年6月29日(土)～6月30日(日)

※ 5月25日、6月29日は「相馬育英館」、それ以外は「寺子屋」

※ 活動時間：「寺子屋」土曜日14：30～18：00（一部16：30）

日曜日 9:30～12:00
「相馬育英館」土曜日17:00～20:00

2 活動場所・内容

「寺子屋」：(場所) 相馬市内の4個所の応急仮設住宅の各集会所

(内容) 児童生徒を対象とした、学習支援及び学力向上のための活動

※ 仮設住宅地内での活動のため、状況によっては学習支援以外の活動(生活相談や遊び相手など)を行う場合も考えられます。

「相馬育英館」：(場所) 相馬市生涯学習会館

(内容) 中学生を対象とした、学習支援及び学力向上のための活動

なお、具体的な活動内容は、相馬市教育委員会に委ねていますので、原則としてその指示に従ってください。

3 募集人員

各班 7名程度

4 応募資格

本学の学生(保護者等の承諾が必要)で、本学の支援活動の理念等に賛同する者。

※ 中学生に対して日本語による5教科(国語、社会、数学、理科、英語)の学習支援が可能な学生。

※ 本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ホームページを参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_01_policy_j.html

5 宿泊場所

相馬市内の賃貸アパート

※ 相馬市が用意する宿泊施設で、原則参加者の負担はありません。

6 移動手段等

東京～JR福島駅：各自、JR等を利用(原則JR福島駅集合・解散)

JR福島駅～相馬市内：福島交通のバスにより移動

相馬市内の移動(宿泊場所～活動場所)：タクシー等を利用

※ JR福島駅～相馬市内及び相馬市内の移動費用は、相馬市が負担します。

※ 東京～JR福島駅の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」の申請をすることにより、2万円を上限とする通常経路の実費額が大学から補助されます。(詳細は本学ボランティア情報HPをご覧ください。

http://www.utokyo.ac.jp/public/recovery/vol_02_shienkin_j.html

7 生活環境

- ・ 宿泊 相馬市が用意する宿泊場所（寝具等あり）に宿泊します。
- ・ 入浴 宿泊場所に入浴設備があります。
- ・ 食事 食事代を相馬市が負担。近隣に食堂、コンビニ等があります。

8 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴用品、タオル、ボランティア保険加入が分かるもの（加入カード、加入証等）、現金（食事・飲み物、交通費、他）
〈その他〉携帯電話（充電器含）、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他
※ 腕章、名札ケースを、大学で用意します。

9 注意事項等

- (1) 活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。
- (2) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地等の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険（天災Bプラン／1年間有効）」に加入するようにしてください。
- (3) 参加に際し、「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

※ 以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項等は、本学ボランティア情報HPの「災害ボランティアQ&A」を参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_04_QA_j.html

10 応募方法等

別紙の「ボランティア活動申込書」に必要事項を記入の上、締切【5月2日(木)】までに、下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あて、E-mail添付又はFAXによりお送りください。参加の可否・方法及び活動の詳細等については、追って申込書記載の連絡先あてに連絡します。

なお、募集人員に達した時点で募集を終了しますので、ご承知置きください。

11 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班（学生支援センター地下1階 学生支援課内）

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529（内線22529）

(2)お知らせ

東京大学ボランティア支援班より お知らせ

学習支援ボランティア 「寺子屋・相馬育英館」参加者募集

現在予定している内容は次のとおりです。

●活動日程：

- (A) 平成25年5月18日(土)～5月19日(日)
- (B) 平成25年5月25日(土)～5月26日(日)
- (C) 平成25年6月15日(土)～6月16日(日)
- (D) 平成25年6月29日(土)～6月30日(日)

※ 5月25日、6月29日は「相馬育英館」、それ以外は「寺子屋」
※ 活動時間：「寺子屋」・・・土曜日 14:30～18:00(一部16:30)
・・・日曜日 9:30～12:00
「相馬育英館」・・・土曜日 17:00～20:00

●活動場所：福島県相馬市内の応急仮設住宅の各集会所等
●活動内容：避難生活をしている児童生徒の学習支援等
●募集人数：各班 7名程度
●宿泊場所：相馬市内の賃貸アパート
●募集締切：5月2日(木) ※満員になり次第締め切ります。

※大学による支援内容は、交通費(ボランティア活動支援金による後払い:2万円上限)、宿泊場所の確保、宿泊場所～活動場所の移動手段の確保です。
※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細および申込書を掲載しておりますのでご覧ください。
http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】
東京大学教授・復興支援室 ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階 本部学生支援課内)
E-mail : volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
FAX : 03-5841-2519
TEL : 03-5841-2529 (内線22529)

(3) 参加者のしおり (初回分のみ掲載)

1. 学習支援ボランティアの参加に当たって

福島県相馬市での学習支援ボランティア活動「寺子屋・相馬育英館」は、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、相馬市の応急仮設住宅に入居している小・中学生を対象として、学習サポートを行うものです。

子どもたちからの質問等に応える形での支援が主となりますが、活動時間内の時間配分やレクリエーションの実施等、学習サポートの進め方はすべて任される予定ですので、リーダーを中心に話し合って決めてください。活動に入る時には自己紹介等により児童・生徒との融和を図っていただくとともに、適度のレクリエーションやフリータイムを組み込んでの企画・実施をお願いします。

なお、活動場所の応急仮設住宅集会所又は談話室は市内4個所に分散しており、各班がそのうちの3個所(2,3名ずつ)で活動を実施し、相馬市が手配するタクシーで移動します。ま

た、一部の日程で相馬市生涯学習会館において中学生を対象とした学習支援活動「相馬育英館」を行います。

ボランティア活動について

- 1) 本ボランティア活動については、大学が募集して派遣することになりますが、基本的にはボランティアの理念に沿って**自己責任、自己完結を原則**とします。
(事前の準備・用意についても自己責任でしっかり整えましょう)
- 2) 活動内容は、福島県相馬市及び相馬市教育委員会の要請に基づいていますので、相馬市の担当者の方および、宿泊場所の管理者の方の連絡事項や指示に従ってください。また、勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご注意ください。

2. 活動期間

- A 班 平成 25 年 5 月 18 日 (土) ~ 5 月 19 日 (日)
B 班 平成 25 年 5 月 25 日 (土) ~ 5 月 26 日 (日)
C 班 平成 25 年 6 月 15 日 (土) ~ 6 月 16 日 (日)
D 班 平成 25 年 6 月 29 日 (土) ~ 6 月 30 日 (日)

3. 活動日程

【1 日目】

- 10:20 **JR 福島駅東口 10 番バス乗り場集合**
※ 必ず時間までに集合してください
- 10:30 **JR 福島駅東口より高速バス乗車**
※ 事前に渡した回数券で
高速バスに乗車してください
- 11:55 **相馬市役所前降車**
※ 到着するバス停の位置が昨年度から
変更となっていますのでご注意ください
- 12:00 **昼食**
- 13:15 **宿泊場所(「さくらビル」)に集合**
適宜、ミーティング等
※ 相馬市担当者から鍵を受け取り、宿泊場所の説明を受けてください
※ 宿泊場所と活動場所(仮設住宅集会所または相馬市生涯学習会館)
との間はタクシーで移動します



- 14:30 **学習支援活動開始(「相馬育英館」参加の場合、17:00～)**
 ※ 活動場所へは以下の物を持って行ってください
腕章 名札 飲み物
 ※ 活動中は東京大学の腕章(水色)をつけてください
- 18:00 **学習支援活動終了(「相馬育英館」参加の場合、20:00まで)**
- 19:00 **宿泊場所へ到着**
夕食、入浴、適宜ミーティング等
- 22:30 **就寝**

☆B・D班の方(「相馬育英館」を含む日程)は、
福島駅東口 14:45 発 ⇒ 16:10 相馬市役所前着 のバスに乗車しても、当日の活動に間に合いますのでかまいません。ただし、その場合は班の全員が同じ時間のバスに乗るようにし、必ずその旨を事前にボランティア支援班事務局まで連絡してください。

【2日目】

- 7:00 **起床、清掃、朝食、出発準備**
- 9:00 **宿泊場所(「さくらビル」)を出発**
 ※ 宿泊場所と活動場所(仮設住宅集会所)の間はタクシーで移動します
- 9:30 **学習支援活動開始**
- 12:00 **学習支援活動終了**
タクシーで宿泊場所へ戻り、鍵を市職員に返却。適宜昼食等
- 14:25 **相馬市役所前出発**
 ※ 事前に渡した回数券で高速バスに乗車してください
- 15:50 **JR 福島駅東口到着・解散**

5. 事前準備と持ち物

1. ボランティア保険への加入

ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、自治体(住所地でなくてもかまいません)の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」(東京都の場合は1,000円)に加入するようにしてください。

2. 大学への届出

参加に際し、学生は「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。様式は下記 URL からダウンロードできます。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_05_todokede_j.html

3. 持ち物

【必需品】

着替え、洗面用具、入浴用品、タオル、

ボランティア保険加入が分かるもの（加入カード又は加入証等）、現金

【その他】

携帯電話(充電器含)、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

4. その他

※ 食事に関しては、相馬市から補助が出ます(当日現地にて支給されます)。

※ 宿泊場所周辺にはスーパーや食事処があります(巻末の地図を参照ください)。

※ 入浴設備は宿泊場所にあります。

6. 活動から帰ったら

1. ボランティア活動報告書

活動後、ボランティア活動報告書を**必ずご提出ください**(別紙参照)。今後の本学の学習支援ボランティアの参考資料とさせていただきます。

2. 写真

大学でカメラを用意していませんので、恐縮ですが活動中の写真をみなさんのお持ちのカメラ等で撮影し、ご提供いただけると幸いです。写真はボランティア活動報告書と同様に今後の参考資料とするほか、大学の活動報告として本学ホームページ等に掲載することがありますので、ご了承ください。具体的な受け渡し方法は、後日連絡いたします。

3. ボランティア活動支援金

東京～福島の間往復の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を申請することにより、2万円を上限とする実費額が補助されます(別紙参照)。また、ボランティア活動支援金は原資に限りのある制度ですので、今後ボランティアに参加される学生のためにも可能であれば学割を利用し、低廉な交通費での申請をお願いします。

申請のためには交通費の領収書等が必要になりますので、往路・復路ともに紛失しないよう

8. 注意事項

8-1. 活動するに当たっての心構え

【全般】

- (1) ボランティア活動は自己責任・自己完結が原則です。事前に自分自身でも十分な情報収集・確認を行い、活動場所での飲み物、食べ物、常備薬、適切な服装、保険等、必要な備えをして被災地に入りましょう。
- (2) 復旧や復興の主役は被災された方です。ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。
- (3) 被災された方と話す際は、相手と同じ目の高さに自分の姿勢を合わせて、自然に接することを心がけましょう。
- (4) 仲間内の話での笑い声が、被災された方の誤解を招くこともあります。言動などへの気配りを忘れないようにしましょう。
- (5) 写真やビデオ撮影をする場合は、被災された方や被災地の気持ちを配慮して行うようにし、被災された方が特定できる写真は、その方の了解を得てから撮影しましょう。
- (6) 団体行動が原則となります。仲間とよく話し合い、一人で抱え込まないようにしましょう。また、単独での行動は避けましょう。
- (7) 被災された方の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことは避けましょう。また、必要以上に自分の経験や考えを振りかざすことは避けましょう。
- (8) ボランティア活動は、やってあげるのではありません。自分のやりたいことをやるのではなく、できることをやらせてもらおうと心得ましょう。

【安全面】

- (9) 活動するためには災害保険の加入が必須です。お住まいの地域の社会福祉協議会で加入できますので、事前に各自で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」(東京都の場合は 1000 円)に加入してください。
- (10) 自分の体調を見極めましょう。調子が悪い時は「活動しない」も選択肢です。おかしいなと感じたら、活動をやめてリーダーに伝えましょう。

【学習支援活動】

- (1) 公の活動であるため、本学の学生として言動や行動に注意しましょう。
- (2) 学習をサポートすることと同時に、児童・生徒たちに友達と集まる場所を提供するという意味もあります。レクリエーション企画等を通じて生徒たちと一緒に過ごす時間を楽しみましょう。
- (3) 問題の正誤だけではなく、学習の方法についても注意し、自立した学習の形成を促しましょう。
- (4) 家庭での学習方法に配慮し、日頃の生活も含めた心のケアを行うよう努めましょう。
- (5) 活動後は、今後の本学の学習支援ボランティアに活かすため、ボランティア活動報告書を提出してください。

8-2. 地震発生時の注意事項

【バス乗車時に地震が発生したら】

- (1) 走行中に地震が発生した場合、運転手の判断により車を路肩に停車させますが、運転手の指示に従って車内で待機してください。
- (2) 地震が収まり、運転手の指示により車外で待機する場合には、運転手の指示に従いバスの前の路肩等で待機してください。特に、高速道路では、むやみに走行車線に出ると危険ですので、決して走行車線には出ないでください。

【ボランティア活動中に地震が発生したら】

- (3) 活動場所に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。
- (4) 屋外で活動中に地震が発生したら、頭上の落下物の危険のない場所へ退避してください。揺れが収まりましたら、地元の防災無線による指示等に従ってください。
- (5) 活動場所で地震が発生したら、天井構造物や照明器具等の落下に注意するとともに、避難所責任者の指示に従ってください。
- (6) 余震が想定される場合には、揺れが収まってから屋外に退避してください。
- (7) 自身の安全確保と同時に、子供や高齢の避難者の誘導等にも心がけてください。

【宿泊場所:地震が発生したら】

- (8) 宿泊場所に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。
- (9) 台所等で火器を使用中の場合には、直ちに火を止めてください。その際、やけどをすることのないよう、注意してください。
- (10) 万一、火災が発生してしまったら、直ちに備え付けの消火器を使用して初期消火に努めてください。同時に、消防署(119番)へ緊急連絡を行ってください。
- (11) 余震が想定されるようでしたら、揺れが収まった後、外へ退避してください。
- (12) 防災無線による指示がありましたら、落ち着いてその指示に従ってください。

※ 東北地方では、今も余震が度々発生していますので、地震や津波に十分注意して行動してください。

9. こんな時はどうする (Q&A)

【目次】

- Q-1. 急に参加できなくなった時は？
- Q-2. 急に帰京しなければならなくなった時は？
- Q-3. 活動場所に忘れ物をした時は？
- Q-4. 活動中に地震が発生した時は？
- Q-5. 活動中に負傷した時の補償は？
- Q-6. 活動中に自分の持ち物が第三者に壊されてしまった場合、補償は受けられる？
- Q-7. 負傷して入院することになった場合はどうなる？
- Q-8. パソコンを持参して使用することはできる？
- Q-9. 期間終了後に引き続き現地に滞在してボランティア活動を行いたいが、他の参加者と一緒に帰京しなくてもよい？
- Q-10. ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうする？

Q-1. 急に参加できなくなった時は？

- A. 遅くとも、出発日の前日(前日等が土・日曜日・休日の場合はその前の平日)の17時までにはボランティア支援班事務局までご連絡ください。また、出発当日に参加できなくなった場合は、至急下記の携帯電話までご連絡ください。

Q-6. 活動中、自分の持ち物が第三者に壊されてしまった場合に補償は受けられる？

- A. ボランティア保険は、活動中に自分がけがなどをした場合や、第三者の身体・財物に損害を与えた場合などに補償を受けられるものですが、自分の持ち物が破損等の損害を被った際には補償の対象とはなりません。活動場所に持ち込むカメラ・携帯電話等の持ち物については責任を持って管理してください。

Q-7. 負傷して入院することになった場合はどうなる？

- A. ボランティア申込書に記載された緊急連絡先に連絡を取り、病院の付き添いや迎えをお願いする予定です。それ以外にもその方が不在の場合も想定して確実に連絡がとれる方のお名前と連絡を複数把握しておくようにお願いします。

Q-8. パソコンを持参して使用することはできる？

- A. 宿泊場所及び活動場所にはネットワーク環境が整備されていないので、パソコンをお持ちいただいてもインターネットへの接続は行えません。また、WiMAX や e-mobile 等の無線モバイルインターネット接続サービスに関しても、サービス提供エリア外の可能性があるため、事前に各自で確認をお願いします。

Q-9. 期間終了後に引き続き現地に滞在してボランティア活動を行いたいが、他の参加者と一緒に帰京しなくてもよい？

- A. 集合時間・場所から解散場所まで団体行動を守っていただければ、一緒に帰京しなくてもかまいません。ただし、活動場所～東京間の往復以外に経路にかかった交通費等は、「ボランティア活動支援金」の支援対象となりませんのでご注意ください。

Q-10. ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうする？

- A. 参加者相互で協議して対応してください。対応困難な場合は、ボランティア支援班事務局へご相談ください（連絡先は Q-1 を参照）。

(4) 活動報告

平成 2 5 年 7 月 4 日

相馬市「寺子屋・育英館」学習支援ボランティア（5～6月）の活動報告

本学では、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、相馬市の被災児童生徒を対象とした「寺子屋・育英館」事業に協力し、平成24年6月から継続的に学習支援活動を実施している。今回は、平成25年5～6月の期間に全4班28名の学生ボランティアを派遣した。

【A班】○参加学生：7名（学部学生5名、大学院学生2名）

○日程：平成25年5月18日（土）～5月19日（日）

○活動場所：相馬市内の応急仮設住宅の集会所等

（1日目）5月18日（土）「寺子屋」活動14：30～18：00（一部16：30）

参加児童生徒数：大野台2名、北飯渕1名、刈敷田4名

（2日目）5月19日（日）「寺子屋」活動9：30～12：00

参加児童生徒数：大野台7名、北飯渕8名、柚木1名



【B班】○参加学生：7名（学部学生6名、大学院学生1名）

○日程：平成25年5月25日（土）～5月26日（日）

○活動場所：相馬市内の生涯学習会館及び応急仮設住宅の集会所等

（1日目）5月25日（土）「育英館」活動17：00～20：00

参加児童生徒数：生涯学習会館（中学生のみ）45名

（2日目）5月26日（日）「寺子屋」活動9：30～12：00

参加児童生徒数：大野台4名、北飯渕7名、柚木7名

【C班】○参加学生：7名（学部学生4名、大学院学生3名）

○日程：平成25年6月15日（土）～6月16日（日）

○活動場所：相馬市内の応急仮設住宅の集会所等

（1日目）6月15日（土）「寺子屋」活動14：30～18：00（一部16：30）

参加児童生徒数：大野台7名、北飯渕7名、刈敷田4名

（2日目）6月16日（日）「寺子屋」活動9：30～12：00

参加児童生徒数：大野台1名、北飯渕6名、柚木0名



- 【D班】○参加学生：7名（学部学生6名、大学院学生1名）
○日程：平成25年6月29日(土)～6月30日(日)
○活動場所：相馬市内の生涯学習会館及び応急仮設住宅の集会所等
(1日目) 6月29日(土)「育英館」活動17:00～20:00
参加児童生徒数：生涯学習会館(中学生のみ)50名
(2日目) 6月30日(日)「寺子屋」活動9:30～12:00
参加児童生徒数：大野台0名、北飯淵4名、柚木5名



【7～8月学習支援ボランティア】

(1) お知らせ

東京大学ボランティア支援班より お知らせ

学習支援ボランティア 「寺子屋・相馬育英館」参加者募集

現在予定している内容は次のとおりです。

●活動日程：

- (A) 平成25年7月 6日(土)～7月 7日(日)
- (B) 平成25年7月20日(土)～7月21日(日)
- (C) 平成25年8月10日(土)～8月11日(日)
- (D) 平成25年8月24日(土)～8月25日(日)

※ 7月20日、8月24日は「相馬育英館」、それ以外は「寺子屋」

※ 活動時間:「寺子屋」・・土曜日14:30～18:00(一部16:30)

・・日曜日 9:30～12:00

「相馬育英館」・・土曜日17:00～20:00

- 活動場所：福島県相馬市内の応急仮設住宅の各集会所等
- 活動内容：避難生活をしている児童生徒の学習支援等
- 募集人数：各班 7名程度
- 宿泊場所：相馬市内の賃貸アパート
- 募集締切：6月21日(金) ※満員になり次第締め切ります。

※大学による支援内容は、交通費(ボランティア活動支援金による後払い:2万円上限)、宿泊場所の確保、宿泊場所～活動場所の移手段の確保です。

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細および申込書を掲載しておりますのでご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】

東京大学救援・復興支援室 ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階 本部学生支援課内)

E-mail : volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX : 03-5841-2519

TEL : 03-5841-2529 (内線22529)



(2) 活動報告

平成25年8月29日

相馬市「寺子屋・育英館」学習支援ボランティア（7～8月）の活動報告

相馬市「寺子屋・育英館」の学習支援は、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、同市の被災児童生徒を対象とした学習支援活動で、平成24年6月から継続的に実施しており、今回は平成25年7～8月の間に全4班27名の学生ボランティアを派遣し実施した。

【A班】○参加学生：6名（学部学生4名、大学院学生2名）

○日程：平成25年7月6日（土）～7月7日（日）

○活動場所：相馬市内の応急仮設住宅の集会所等

（1日目）7月6日（土）「寺子屋」活動14：30～18：00（一部16：30）

参加児童生徒数：大野台2名、北飯淵5名、刈敷田1名

（2日目）7月7日（日）「寺子屋」活動9：30～12：00

参加児童生徒数：大野台3名、北飯淵3名、柚木4名

【B班】○参加学生：7名（学部学生4名、大学院学生3名）

○日程：平成25年7月20日（土）～7月21日（日）

○活動場所：相馬市内の生涯学習会館及び応急仮設住宅の集会所等

（1日目）7月20日（土）「育英館」活動17：00～20：00

参加児童生徒数：生涯学習会館（中学生のみ）48名

（2日目）7月21日（日）「寺子屋」活動9：30～12：00

参加児童生徒数：大野台8名、北飯淵4名、柚木3名

【C班】○参加学生：7名（学部学生5名、大学院学生2名）

○日程：平成25年8月10日（土）～8月11日（日）

○活動場所：相馬市内の応急仮設住宅の集会所等

（1日目）8月10日（土）「寺子屋」活動14：30～18：00（一部16：30）

参加児童生徒数：大野台7名、北飯淵3名、刈敷田2名

（2日目）8月11日（日）「寺子屋」活動9：30～12：00

参加児童生徒数：大野台2名、北飯淵3名、柚木0名

【D班】○参加学生：7名（学部学生3名、大学院学生4名）

○日程：平成25年8月24日（土）～8月25日（日）

○活動場所：相馬市内の生涯学習会館及び応急仮設住宅の集会所等

（1日目）8月24日（土）「育英館」活動17：00～20：00

参加児童生徒数：生涯学習会館（中学生のみ）42名

（2日目）8月25日（日）「寺子屋」活動9：30～12：00

参加児童生徒数：大野台3名、北飯淵2名、柚木0名



【9～10月学習支援ボランティア】

(1) お知らせ

東京大学ボランティア支援班より お知らせ

相馬市学習支援ボランティア 「寺子屋・育英館」参加者募集

現在予定している内容は次のとおりです。

●活動日程：

(A) 平成25年 9月 7日(土)～ 9月 8日(日)

(B) 平成25年10月12日(土)～10月13日(日)

(C) 平成25年10月26日(土)～10月27日(日)

※ 10月26日は「育英館」、それ以外は「寺子屋」

※ 活動時間:「寺子屋」・・土曜日14:30～18:00(一部16:30)

・・日曜日 9:30～12:00

「育英館」・・土曜日17:00～20:00

●活動場所：福島県相馬市内の応急仮設住宅の各集会所等

●活動内容：避難生活をしている児童生徒の学習支援等

●募集人数：各班 7名程度

●宿泊場所：相馬市内の賃貸アパート

●募集締切：8月23日(金) ※募集定員になり次第締め切ります。

※大学による支援内容は、交通費(ボランティア活動支援金による後払い:2万円上限)、宿泊場所の確保、宿泊場所～活動場所の移動手段の確保です。

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細および申込書を掲載しておりますのでご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】

東京大学救援・復興支援室 ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階 本部学生支援課内)

E-mail : volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX : 03-5841-2519

TEL : 03-5841-2529 (内線22529)

(2) 活動報告

平成25年10月30日

相馬市「寺子屋・育英館」学習支援ボランティア(9～10月)の活動報告

相馬市「寺子屋・育英館」の学習支援は、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、同市の被災児童生徒を対象とした学習支援活動で、平成24年6月から継続的に実施しており、今回は平成25年9～10月の間に全2班12名の学生ボランティアを派遣し実施した。

※ 当初、全3班を派遣の予定であったが、台風襲来のため1班が中止となった。

【A班】○参加学生：5名(学部学生3名、大学院学生2名)

○日程：平成25年9月7日(土)～9月8日(日)

○活動場所：相馬市内の応急仮設住宅の集会所等

(1日目)9月7日(土)「寺子屋」活動14:30～18:00(一部16:30)

参加児童生徒数：大野台2名、北飯渕4名、刈敷田8名

(2日目)9月8日(日)「寺子屋」活動9:30～12:00

参加児童生徒数：大野台5名、北飯渕4名、柚木1名

【B班】○参加学生：7名(学部学生5名、大学院学生2名)

○日程：平成25年10月12日(土)～10月13日(日)

○活動場所：相馬市内の応急仮設住宅の集会所等

(1日目)10月12日(土)「寺子屋」活動14:30～18:00(一部16:30)

参加児童生徒数：大野台10名、北飯渕7名、刈敷田7名

(2日目)10月13日(日)「寺子屋」活動9:30～12:00

参加児童生徒数：大野台4名、北飯渕4名、柚木3名



【11～12月学習支援ボランティア】

(1) お知らせ

東京大学ボランティア支援班より お知らせ

相馬市学習支援ボランティア 「寺子屋・育英館」参加者募集

現在予定している内容は次のとおりです。

●活動日程：

- (A) 平成25年11月 9日(土)～11月10日(日)
- (B) 平成25年11月23日(土)～11月24日(日)
- (C) 平成25年12月 7日(土)～12月 8日(日)
- (D) 平成25年12月21日(土)～12月22日(日)

※ 11月23日、12月21日は「育英館」、それ以外は「寺子屋」

※ 活動時間：「寺子屋」…土曜日14:30～18:00(一部16:30)

…日曜日 9:30～12:00

「育英館」…土曜日17:00～20:00

- 活動場所：福島県相馬市内の応急仮設住宅の各集会所等
- 活動内容：避難生活をしている児童生徒の学習支援等
- 募集人数：各班 7名程度
- 宿泊場所：相馬市内の賃貸アパート
- 募集締切：10月25日(金) ※募集定員になり次第締め切ります。

※大学による支援内容は、交通費(ボランティア活動支援金による後払い:2万円上限)、宿泊場所の確保、宿泊場所～活動場所の移動手段的確保です。

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細および申込書を掲載しておりますのでご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】

東京大学救援・復興支援室 ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階 本部学生支援課内)

E-mail : volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX : 03-5841-2519

TEL : 03-5841-2529 (内線22529)

(2) 活動報告

平成25年12月27日

相馬市「育英館・寺子屋」学習支援ボランティア（11～12月）の活動報告

相馬市「育英館・寺子屋」の学習支援は、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、同市の被災児童生徒を対象とした学習支援活動で、平成24年6月から継続的に実施しており、今回は平成25年11～12月の間に全4班27名の学生ボランティアを派遣し実施した。

【A班】○参加学生：7名（学部学生5名、大学院学生2名）

○日程：平成25年11月9日（土）～11月10日（日）

○活動場所：相馬市内の生涯学習会館及び応急仮設住宅の集会所等

（1日目）11月9日（土）「育英館」活動17：00～20：00

参加児童生徒数：生涯学習会館（中学生のみ）42名

（2日目）11月10日（日）「寺子屋」活動9：30～12：00

参加児童生徒数：大野台5名、北飯淵0名、刈敷田3名

【B班】○参加学生：6名（学部学生5名、大学院学生1名）

○日程：平成25年11月23日（土）～11月24日（日）

○活動場所：相馬市内の生涯学習会館及び応急仮設住宅の集会所等

（1日目）11月23日（土）「育英館」活動17：00～20：00

参加児童生徒数：生涯学習会館（中学生のみ）28名

（2日目）11月24日（日）「寺子屋」活動9：30～12：00

参加児童生徒数：大野台5名、北飯淵1名、柚木（磯部公民館）1名



- 【C班】○参加学生：7名（学部学生6名、大学院学生1名）
 ○日程：平成25年12月7日（土）～12月8日（日）
 ○活動場所：相馬市内の生涯学習会館及び応急仮設住宅の集会所等
 （1日目）12月7日（土）「育英館」活動17：00～20：00
 参加児童生徒数：生涯学習会館（中学生のみ）18名
 （2日目）12月8日（日）「寺子屋」活動9：30～12：00
 参加児童生徒数：大野台8名、北飯淵3名、刈敷田1名



- 【D班】○参加学生：7名（学部学生3名、大学院学生4名）
 ○日程：平成25年12月21日（土）～12月22日（日）
 ○活動場所：相馬市内の生涯学習会館及び応急仮設住宅の集会所等
 （1日目）12月21日（土）「育英館」活動17：00～20：00
 参加児童生徒数：生涯学習会館（中学生のみ）23名
 （2日目）12月22日（日）「寺子屋」活動9：30～12：00
 参加児童生徒数：大野台8名、北飯淵3名、柚木1名



【1～3月学習支援ボランティア】

(1) お知らせ

東京大学ボランティア支援班より お知らせ

相馬市学習支援ボランティア 「寺子屋・育英館」参加者募集

現在予定している内容は次のとおりです。

●活動日程：

- (A) 平成26年1月18日(土)～1月19日(日)
- (B) 平成26年2月 1日(土)～2月 2日(日)
- (C) 平成26年2月15日(土)～2月16日(日)
- (D) 平成26年3月 1日(土)～3月 2日(日)

※ 活動時間：「育英館」…土曜日17:00～20:00
「寺子屋」…日曜日 9:30～12:00

●活動場所・内容：

「育英館」：(場所)相馬市生涯学習会館

(内容)中学生を対象とした、学習支援及び学力向上のための活動

「寺子屋」：(場所)相馬市内の4箇所の応急仮設住宅の各集会所

(内容)児童生徒を対象とした学習支援及び学力向上のための活動

●募集人数：各班 7名程度

●宿泊場所：相馬市内の賃貸アパート

●募集締切：12月27日(金) ※募集定員になり次第締め切ります。

※大学による支援内容は、交通費(ボランティア活動支援金による後払い:2万円上限)、宿泊場所の確保、宿泊場所～活動場所の移動手段の確保です。

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細および申込書を掲載しておりますのでご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】

東京大学救援・復興支援室 ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階 本部学生支援課内)

E-mail : volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX : 03-5841-2519

TEL : 03-5841-2529 (内線22529)



(2) 活動報告

平成26年3月3日

相馬市「育英館・寺子屋」学習支援ボランティア（1～3月）の活動報告

相馬市「育英館・寺子屋」の学習支援は、福島県相馬市及び相馬市教育委員会からの要請により、同市の被災児童生徒を対象とした学習支援活動で、平成24年6月から継続的に実施しており、今回は平成26年1～3月の間に全3班19名の学生ボランティアを派遣し実施した。

※ 当初、全4班を派遣の予定であったが、降雪の影響によりC班が中止となった。

- 【A班】○参加学生：7名（学部学生5名、大学院学生2名）
○日程：平成26年1月18日（土）～1月19日（日）
○活動場所：相馬市内の生涯学習会館及び応急仮設住宅の集会所等
- （1日目）1月18日（土）「育英館」活動17：00～20：00
参加児童生徒数：生涯学習会館（中学生のみ）33名
- （2日目）1月19日（日）「寺子屋」活動9：30～12：00
参加児童生徒数：大野台4名、北飯淵2名、刈敷田0名



- 【B班】○参加学生：6名（学部学生1名、大学院学生5名）
○日程：平成26年2月1日（土）～2月2日（日）
○活動場所：相馬市内の生涯学習会館及び応急仮設住宅の集会所等
- （1日目）2月1日（土）「育英館」活動17：00～20：00
参加児童生徒数：生涯学習会館（中学生のみ）12名
- （2日目）2月2日（日）「寺子屋」活動9：30～12：00
参加児童生徒数：大野台3名、北飯淵3名、柚木0名



【C班】○平成26年2月15日(土)～2月16日(日)実施予定
※降雪による交通機関の混乱及び移動途中の安全確保等を勘案して中止

【D班】○参加学生：6名(学部学生3名、大学院学生3名)
○日程：平成26年3月1日(土)～3月2日(日)
○活動場所：相馬市内の生涯学習会館及び応急仮設住宅の集会所等
(1日目) 3月1日(土)「育英館」活動17:00～20:00
参加児童生徒数：生涯学習会館(中学生のみ)34名
(2日目) 3月2日(日)「寺子屋」活動9:30～12:00
参加児童生徒数：大野台4名、北飯淵0名、柚木0名
※ 終了後、沿岸被災地域の見学を行った。

【ボランティア参加学生の活動報告（抜粋）】

○最初の 30~40 分ほどは誰も来ず、このまま終わってしまうのではと心配しましたが、運動会帰りの子どもたちがやってきて、鬼ごっこに誘われたのですことにしました。子どもたちは小学生 3 名、保育園生 1 名の計 4 名でした。刈敷田は 16:30 と早めに終了し、その北飯渕の方へ移動・合流しました。北飯渕では、小学生の男の子が 1 人で、ほとんどの時間を男の子が公文式のプリントや漢字ドリルをやるのを 4 人で見守る形で過ごすことになりました。(学部 2 年生)

○仮設住宅で小学生や幼稚園児の世話をした。なかなか勉強に集中できず遊んでしまう生徒もいたが、きつく叱ることもなく、一緒に遊んだりしながら楽しく過ごした。仮設住宅での生活のつらさとか、実の家でない寂しさのようなものを肌で感じる事ができた。(学部 2 年生)

○会場へ向かったが開錠されておらず、普段子どもたちの遊び場となっている風呂屋での活動となった。やんちゃな子どもたちばかり（小学生 6、中学生 1）で、勉強する気が全くなかったため、サッカーをして過ごした。(会場が急きょ変更となるという) ハプニングがあり、サッカー自体は楽しかったが、勉強意欲のない子どもたちを前に東大生として何も出来なかったのが悔しく、ふがいなかった。(学部 4 年生)

○初めの 1 時間は集会所に全く子供が来ずじれったい思いをしました。任意参加ですのでこういったこともあるのだと心得ておくのが良いと思います。10:30 頃に中学生の女の子が親御さんと共に来て、学習の仕方のアドバイス等を行いました。その子は相馬育英館の抽選に漏れた子であり、内気ではありますが学習意欲に富んだ子でした。その後 11:15 頃に小学生 3 人が勉強をしに来ました。私は主として小 2 の男の子の百ます計算や漢字の練習をみていましたが、やはり集中力はなかなか持たず、低学年の男の子特有の物理的攻撃に苦笑いする場面もありました。ただ、描いた絵を見せてくれるなど、少しでも心の交流ができたかと思うととても嬉しく思いました。しばらくすると小学生 3 人はホワイトボードを使ってお絵描き合戦を始め、迎えがくるまで夢中でお絵描きしていました。迎えがくるとすぐに外に出てバスケットを始めていたのですが、私たちの帰り際に手を振ってくれたことがとても嬉しく、来て良かったという気持ちになりました。(専門職 1 年生)

○育英館で会った中学生たちは、部活動帰りの子も多く、元気な雰囲気だったので、少なくとも外見上は、被災によるダメージもかなり癒えてきているのではないかという印象を受けました。私も活動中あまり気負わずに、友達のような雰囲気で生徒たちに接するように心がけたのですが、それで一番よかったのだらうと思います。(学部 2 年生)

○共通の問題集が与えられ、生徒たちが考えている中で東大生が巡回し、ヒントや解説を与える形式。生徒の学力に差があり、中には問題が難しすぎるのではないかと思う子もいたが、こちらが丁寧に解説すると、一生懸命聞いてくれた。

勉強以外のことも積極的に聞かれ、学生生活や将来の夢について話した。3時間が短く感じられるほど白熱していてやりがいを感じたが、一方で月に一回と開催頻度が少ないこと、毎回講師が変わってしまい継続的な人間関係を築けないことが課題ではあったが、先生ではない「学生」という立場で伝えられるものもあったと思うし、生徒も楽しんでいたので来てよかったと思った。(学部2年生)

○子供達と最初はなかなかこちらも距離が取りづらいし、子供たちの側も距離をとりづらいということがネックでしたが、徐々に慣れることができました。それだけに、仲良くなりつつある段階で帰るタイミングとなってしまうのは残念でありました。(専門職3年生)

○すぐに遊ぼうとする子どもに対して少しでも勉強をしてもらおうとすることがなかなか難しかったですが、有り余っている元気を発散し楽しみつつ、少しでも勉強する機会を与えられたようなので、個人的には満足しています。(学部4年生)

○個人的には今回のボランティア、宿題のお手伝いや遊び相手には留まらず、大学生として子供たちに憧れてもらえるようにふるまおう、と思っていましたが、それはなかなか難しかったです。将来の夢は何かな?とかも聞いてみましたが、なかなか小学生とこういったことを話すのは難しかったです。(学部2年生)

○個人的には、北飯渕と大野台での学習支援は、大学生と子供の数のバランス、子供たちの学習に対する姿勢がすばらしく、かなり良い活動になっていると感じた。刈敷田と柚木での学習支援も、何をすれば良いのかは分からないが、工夫すれば、意義のある活動になっていくのではないかと感じた。(博士課程2年生)

○勉強と休憩を20分、10分くらいの割合でとってもらったところ、存外効果的でした。前日には宿題の算数のプリントが表面半分しか終わらなかったのが、一枚表裏すべて終わらせることができ、なおかつ「きちんと」遊ぶ時間もとってもらうことができました。(学部4年生)

○印象に残ったことは、子供たちの切り替えの速さと勉強量の多さです。長時間集中することができない年齢ではありますが、大学生の目からは目紛らしいほど勉強と遊びが入れ替わり、子供なりの継続法なのかとも思いました。また自学課題などで毎日継続的に勉強できる仕組みも窺えて興味深かったです。(学部3年生)

4. 福島県大熊町の避難生徒への 学習支援ボランティアの派遣

平成25年8月の夏休み期間中に学生による学習支援ボランティアを福島県大熊中学校（福島第1原発事故により大熊町から会津若松に移転）へ派遣した。

(1) 募集要項

平成25年7月1日

学生の皆さんへ

救援・復興支援室ボランティア支援班

福島県大熊町の学習支援ボランティアの募集について

東京大学では、東日本大震災による災害からの復興、再生に向けて、大学全体で支援活動の取組みを行うとともに、学生や教職員が自主的・自発的な支援活動を展開しています。

福島県大熊町教育委員会からの要請により、昨年に引き続き、福島第1原発事故により大熊町から会津若松市に避難している大熊中学校の生徒を対象として学習支援活動を行う、学生ボランティアを募集します。

下記の内容をご覧ください、積極的な応募をお願いします。

1 活動期間

平成25年8月18日(日)～8月23日(金) <5泊6日(活動5日)>

2 募集人員

10名程度

3 応募資格

本学の学生（保護者の承諾が必要）で、本学の支援活動の理念等に賛同する者。

※ 中学生に対して日本語による5教科（国語、社会、数学、理科、英語）の学習支援が可能な学生。

※ 本学の支援活動の理念、ボランティア活動の基本方針については、本学ホームページを参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_01_policy_j.html

4 活動場所

大熊中学校（福島県会津若松市内）の教室を利用

5 活動内容

中学生を対象として、自習形式を主とした学習支援を行う。

なお、具体的事項は、大熊町教育委員会等と協議の上、追って決定します。

6 宿泊場所

福島県会津自然の家（会津坂下町）

7 活動日程（以下は全期間を通しての予定概要。内容は変更になる場合があります。）

8月18日（日）（移動日）

12：00 東京駅を出発（各自）

15：00 会津若松駅に集合

16：00 会津自然の家に到着

（適宜ミーティング等／自由時間）

22：00 就寝

8月19日（月）～8月22日（木）（活動日）

6：00 起床、朝食等

9：00 送迎用バスにより会津自然の家を出発

10：00～16：00 学習支援活動（昼食持参／生徒と一緒に）

17：00 送迎用バスにより宿泊場所に到着

（適宜ミーティング等／自由時間）

22：00 就寝

8月23日（金）（活動及び移動日）

6：00 起床、朝食等

9：00 送迎用バスにより会津自然の家を出発

10：00～16：00 学習支援活動（昼食持参／生徒と一緒に）

17：00 会津若松駅にて解散

8 現地等への移動手段

東京駅～会津若松駅の移動／各自JR等利用（活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより大学が補助）

会津若松駅～会津自然の家～大熊中学校の移動／

会津自然の家の送迎車又は大学の借上車

9 生活環境

宿泊、入浴は、会津自然の家の施設利用となります。（施設使用料、クリーニング代は大学負担。食事代及び活動場所での昼食は各自負担となります。）

10 持ち物

- 〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴用品、タオル、ボランティア保険加入が分かるもの（加入カード、加入証等）、現金（食事・飲み物、交通費、他）
〈その他〉携帯電話（充電器含）、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他
※ 腕章、ネームケースは、大学で用意します。

11 注意事項等

- (1) 活動に当たっては、ボランティアの理念に沿って自己責任・自己完結が原則となります。
- (2) ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地等の社会福祉協議会で「災害ボランティア保険（天災Bプラン）」に加入するようにしてください。
- (3) 参加に際し、「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。
※ 以上の他、ボランティア活動に伴う注意事項等は、本学ボランティア情報HPの「災害ボランティアQ&A」を参照ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_04_QA_j.html

12 応募方法等

別紙の「ボランティア活動申込書」に必要事項を記入の上、締切日7月26日（金）までに下記「東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班」あて、**E-mail** 又は **FAX** によりお送りください。

参加の可否については、追って申込書記載の連絡先あてに連絡します。なお、募集人員に達し次第、募集を終了いたします。

13 お問い合わせ

東京大学救援・復興支援室ボランティア支援班（学生支援センター地下1階 学生支援課内）

E-mail volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX 03-5841-2519

TEL 03-5841-2529（内線22529）

(2) お知らせ

東京大学ボランティア支援班より お知らせ

学習支援ボランティア募集 @ 福島県大熊町



現在予定している内容は次のとおりです。



- 活動日程:平成25年 8月18日(日)~8月23日(金) <5泊6日>
- 活動場所:大熊中学校(福島県会津若松市内)の教室
- 活動内容:避難生活をしている中学生の学習支援
- 募集人数:10名程度(本学の学生)
- 宿泊場所:会津自然の家
- 募集締切:7月26日(金) ※満員になり次第締め切ります。



※大学による支援内容は、交通費(ボランティア活動支援金による後払い:2万円上限)、宿泊場所の確保、宿泊場所~活動場所の移動手段の確保です。

※このボランティアに興味のある方は、下記URL【本学ボランティア情報HP】に詳細を掲載しておりますのでご覧ください。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html

【問合せ先】

東京大学救援・復興支援室 ボランティア支援班
(学生支援センター地下1階 本部学生支援課内)

E-mail : volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

FAX : 03-5841-2519

TEL : 03-5841-2529 (内線22529)



(3) 参加者のしおり (抜粋)

1. 学習支援ボランティアの参加に当たって

「福島県大熊町の避難生徒への学習支援」は、大熊町教育委員会からの要請により、同町から会津若松市に避難している大熊中学校の生徒を対象として、主に自習形式での教室における学習サポートを行うものです。

教室の分け方やタイムスケジュール、学習サポートの進め方や分担等はすべて任される予定ですので、リーダーを中心に話し合ってください。

なお、初日の開講時には自己紹介や学習方法等の話題提供により生徒との親睦を図っていただくとともに、1日1～2時間程度のレクリエーションやフリータイムを組み込んでいただき、それらの企画・実施をお願いします。

活動場所の大熊中学校は、会津若松市内に仮校舎が設置されており、宿泊場所の会津自然の家から、送迎バスにより毎日通うことになります。

●学習支援をするに当たっての注意点

(附属中学校教諭の講話より)

① 公の活動であること。

アルバイトとは異なり、教育委員会の正式な依頼をうけて大学の代表として活動することを肝に銘じてほしい。

② 言動に注意すること。

普通のことでも迷惑になる場合もある。

③ 全体的なサポートをすること。

- ・ 問題の正誤だけでなく学習の方法に注意し、自立した学習の形成を促す
- ・ 家庭での勉強法にも配慮する (日頃の生活を含めた心のケア)

→ 一時の正解ではなく、長い目で見た学習方法を

2. 活動期間

平成25年8月18日(日)～8月23日(金) <5泊6日>

3. 活動日程

8月18日(日)(移動日)

- 15:00 会津若松駅に集合(現地集合)
→ 駅前から送迎バス(予定)で会津自然の家へ移動
- 16:00 会津自然の家に到着
オリエンテーション、夕食、入浴、適宜ミーティング等
- 22:00 就寝

8月19日(月)～8月22日(木)(活動日)

- 6:00 起床、洗面、清掃等
- 7:20 朝食、出発準備等
- 9:00 送迎バスで会津自然の家を出発
- 10:00～16:00 学習支援活動(昼食持参/生徒と一緒に)
- 16:20 送迎バスで会津自然の家へ移動
- 17:00 会津自然の家に到着
夕食、入浴、適宜ミーティング等
- 22:00 就寝

(活動に持っていくもの) 腕章 名札
昼食 飲み物

8月23日(金)(活動及び移動日)

- 6:00 起床、洗面、清掃等/帰り支度をする
- 7:20 朝食、出発準備等
- 9:00 送迎バスにより会津自然の家を出発
- 10:00～16:00 学習支援活動(昼食持参/生徒と一緒に)
- 16:20 送迎バスで会津若松駅へ移動
- 17:00 会津若松駅にて解散(現地解散)

- ※1 東京駅～会津若松駅の移動は、各自JR等を利用し、領収書又は切符購入証明を保管しておいてください。活動終了後に「ボランティア活動支援金」を請求することにより、2万円を上限とする交通費相当額（迂回した場合など減額される場合があります。）が補助されます。（別紙参照）
- ※2 会津自然の家～大熊中学校の移動は、送迎用のバスを利用しますので、各自の負担はありません。
- ※3 学習支援活動が終了した後、速やかに「学習支援ボランティア活動報告書」を提出願います。
- ※4 食事・飲み物代は、すべて各自の負担となります。
朝食（410円）・夕食（560円）は、会津自然の家の食事（バイキング形式）をとっていただきます。昼食は、大熊中学校の生徒と一緒にいただきますが、弁当等の調達方法は参加者相互で話し合ってください。近所にコンビニや配達可能な弁当屋も幾つかあるので、利用が可能です。
- ※5 会津自然の家の生活の注意事項は参考資料を参照してください。
- ※6 災害ボランティア保険は必ず出発前に各自で加入してください。

5. 事前準備と持ち物

1 ボランティア活動について

- 1) 本ボランティア活動については、大学が募集して派遣することになりますが、基本的にはボランティアの理念に沿って**自己責任、自己完結を原則**とします。
- 2) 活動内容は、福島県大熊町教育委員会の要請に基づいていますので、担当者等の連絡事項や指示に従ってください。また、勝手な行動は活動の混乱を招きますのでご遠慮ください。

2 ボランティア保険への加入について

ボランティア保険への加入が必須です。各自が事前に、住所地の社会福祉協議会で「**災害ボランティア保険（天災Bプラン）**」（東京都の場合は**1,000円**）に加入するようにしてください。

3 大学への届出

参加に際し、学生は「ボランティア活動届」を所属部局の教務担当へ提出してください。

様式は配付した資料の中にあります。また、下記URLからダウンロードできます。

http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/vol_05_todokede_j.html

4 持ち物

〈必需品〉着替え、洗面用具、入浴用品、タオル、運動靴（室内レク用）、ボランティア保険加入がわかるもの（加入カード又は加入証等）、現金

〈その他〉携帯電話（充電器含）、時計、学生証、健康保険証、各自必要な薬品、他

5 食事・入浴について

食事は、朝・夕は会津自然の家でのバイキング形式で、1日当たり朝食410円、夕食560円の食費がかかります。

活動日の昼食は、大熊中学校の生徒と一緒にいただきますが、弁当等の調達方法は参加者相互で話し合ってください。近所にコンビニや配達可能な弁当屋もいくつかあるので、利用が可能です。

入浴時間は、会津自然の家にて17:00～21:30の間ですが、他団体の利用状況によっては事前調整があります。ボディーソープ、シャンプーはありますが、タオル等は各自準備してください。ドライヤーは2台設置されておりますが、洗面所でご利用ください。（設置場所以外で使用するとブレーカーが落ちるそうです。）

6. 活動から帰ったら

1. ボランティア活動報告書

活動後、ボランティア活動報告書を**必ず提出してください**。今後の本学の学習支援ボランティアの参考資料とさせていただきます。

2. 写真

大学でカメラを用意していませんので、恐縮ですが活動中の写真をみなさんのお持ちのカメラ等で撮影し、ご提供いただけると幸いです。写真はボランティア活動報告書と同様に今後の参考資料とするほか、大学の活動報告として本学ホームページ等に掲載することがありますので、ご了承ください。具体的な受け渡し方法は、後日連絡いたします。

3. ボランティア活動支援金

東京～福島の往復の交通費については、活動終了後に「ボランティア活動支援金」を申請することにより、2万円を上限とする実費額が補助されます（別紙参照）。また、ボランティア活動支援金は原資に限りのある制度ですので、今後ボランティアに参加される学生のためにも可能であれば学割を利用し、低廉な交通費での申請をお願いします。

申請のためには交通費の領収書等が必要になりますので、往路・復路ともに紛失しないようご注意ください。なお、迂回・途中下車等をした場合は減額される可能性があります。

提出先

- (1) 窓口に直接提出する場合
本郷キャンパス窓口：学生支援センター地下1階 本部学生支援課
駒場キャンパス窓口：アドミニストレーション棟1階 教養学部等学生支援課
柏キャンパス窓口：新領域創成科学研究科 教務係
- (2) 郵送で提出する場合
〒113-8654 東京都文京区本郷 7-3-1 学生支援センター地下1階
東京大学ボランティア支援班 宛
- (3) メールで提出する場合
ボランティア支援班 volunteer-jimu@ml.adm.u-tokyo.ac.jp まで
※ボランティア活動支援金の申請はメールでは提出できません

7. 注意事項等

活動するに当たっての心構え

[全般]

- (1) ボランティア活動は自己責任・自己完結が原則です。事前に自分自身でも十分な情報収集・確認を行い、活動場所での飲み物、食べ物、常備薬、適切な服装、保険等、必要な備えをして被災地に入りましょう。
- (2) 復旧や復興の主役は被災された方です。
ボランティアはそれをサポートする存在であるという原則を忘れないように心がけましょう。
- (3) 被災された方と話をする際は、相手と同じ目の高さに自分の姿勢を合わせて、自然に接することを心がけましょう。
- (4) 仲間内の話での笑い声が、被災された方の誤解を招くこともあります。言動などへの気配りを忘れないようにしましょう。
- (5) 写真やビデオ撮影をする場合は、被災された方や被災地の気持ちを配慮して行うようにし、被災された方が特定できる写真は、その方の了解を得てから撮影しましょう。
- (6) 団体行動が原則となります。仲間とよく話し合い、一人で抱え込まないよ

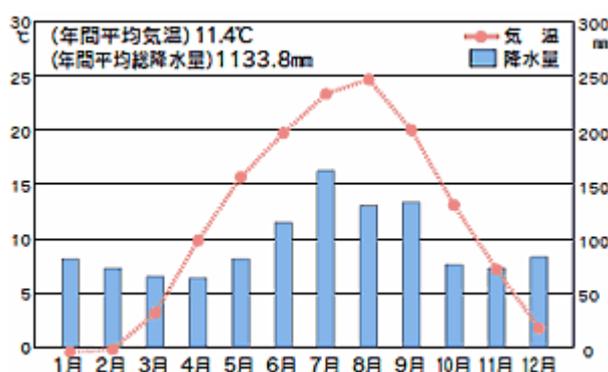
うにしましょう。また、単独での行動は避けましょう。

- (7) 被災された方の立場をできるだけ理解し、自分の判断を押しつけるようなことは避けましょう。また、必要以上に自分の経験や考えを振りかざすことは避けましょう。
- (8) ボランティア活動は、やってあげるものではありません。自分のやりたいことをやるのではなく、できることをやらせてもらおうと心得ましょう。

[安全面]

- (1) 活動するためには災害保険の加入が必須です。お住まいの地域の社会福祉協議会で加入できますので、事前に各自で「災害ボランティア保険(天災Bプラン)」(東京都の場合は1000円)に加入してください。
- (2) 自分の体調を見極めよう。調子が悪い時は「活動しない」も選択肢です。おかしいなど感じたら、活動をやめてリーダーに伝えましょう。
- (3) 暑い時期ではありますが、露出度の高い服装はやめましょう。

<会津地方の気候>会津若松市



(福島県 HP より)

[学習支援ボランティア]

- (12) 公の活動であるため、本学の学生として言動や行動に注意しましょう。
- (13) 今後の本学の学習支援ボランティアに活かすため、活動後にボランティア活動報告書を提出してください。

- (14) 学習をサポートすることと同時に、生徒たちに友達と集まる場所を提供するという意味もあります。レクリエーション企画等を通じて生徒たちと一緒に過ごす時間を楽しみましょう。

地震発生時の注意事項

(バス乗車時に地震が発生したら)

- ・走行中に地震が発生した場合、運転手の判断により車を路肩に停車させますが、運転手の指示に従って車内で待機してください。
 - ・地震が収まり、運転手の指示により車外で待機する場合には、バスの前方の路肩で待機してください。特に、高速道路では、むやみに走行車線に出ると危険ですので、決して走行車線には出ないでください。

(ボランティア活動中に地震が発生したら)

- ・活動場所に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。
- ・屋外で活動中に地震が発生したら、頭上の落下物の危険のない場所へ退避してください。

揺れが収まりましたら、地元の防災無線による指示等に従ってください。

- ・沿岸地域で活動中の場合には、揺れが収まりましたら地元指定の高台の避難所へ退避してください。避難経路や避難場所が不明の場合には、最寄りの裏山やコンクリート製の高層建物（できれば4階以上が望ましい）に避難してください。
- ・体育館等の避難所で活動中に地震が発生したら、天井構築物や照明器具等の落下に注意するとともに、避難所責任者の指示に従ってください。
- ・余震が想定される場合には、揺れが収まってから屋外に退避してください。
- ・自身の安全確保と同時に、子供や高齢の避難者の誘導等にも心がけてください。

(宿泊場所で地震が発生したら)

- ・宿泊場所に到着したら、直ちに避難経路、避難場所の確認を行ってください。
- ・台所等で火器を使用中の場合には、直ちに火を止めてください。その際、やけどをすることのないよう、注意してください。
- ・万一、火災が発生してしまったら、直ちに備え付けの消火器を使用して初期消火に努めてください。同時に、消防署（119番）へ緊急連絡を行ってください。
- ・余震が想定されるようでしたら、揺れが収まった後、外へ退避してください。
- ・現地の防災無線による指示がありましたら、落ち着いてその指示に従ってください。

Q-3. 活動場所に忘れ物をした時は？

- A. 忘れ物をしてしまった場合には、ひとりで取りに行くようなことはしないでボランティア支援班職員（080-2373-1881, 080-2373-1882）に相談してください。

Q-4. 活動中に地震が発生した時は？

- A. 活動場所へ到着したら、現地の避難経路及び避難場所を確認してください。地震が発生したら、家屋の倒壊、落下物等に注意し、身を守ってください。揺れが収まってから、指定の避難場所へ速やかに移動してください。その際、決して単独行動はしないでください。詳しくは「地震発生時の注意事項」をあわせてご覧ください。

Q-5. 活動中に負傷した時の補償は？

- A. 社会福祉協議会のボランティア活動保険の天災Bプランに加入している方で支給要件を満たす場合は、次の例による補償が受けられます。

補償の例

項目	保険金額
死亡保険金	2000 万円
後遺障害保険金	2000 万円（限度額）
入院保険金日額	11000 円
通院保険金日額	6370 円
賠償責任保険金（対人・対物共通）	5 億円（限度額）

Q-6. 活動中、自分の持ち物が第三者に壊されてしまった場合に補償は受けられる？

- A. ボランティア保険は、活動中に自分がけがなどをした場合や、第三者の身体・財物に損害を与えた場合などに補償を受けられるものですが、自分の持ち物が破損等の損害を被った際には補償の対象とはなりません。活動場所に持ち込むカメラ・携帯電話等の持ち物については責任を持って管理してください。

Q-7. 負傷して入院することになった場合はどうなる？

- A. ボランティア申込書に記載された緊急連絡先に連絡を取り、病院の付き添いや迎えをお願いする予定です。それ以外にもその方が不在の場合も想定して確実に連絡がとれる方の名前と連絡先を複数把握しておくようお願いします。

Q-8. パソコンを持参して使用することはできる？

- A. 宿泊場所及び活動場所にはネットワーク環境が整備されていないので、パソコンをお持ちいただいてもインターネットへの接続は行えません。また、WiMAX や e-mobile 等の無線モバイルインターネット接続サービスに関しても、サービス提供エリア外の可能性があるため、事前に各自で確認をお願いします。

Q-9. 期間終了後に引き続き現地に滞在してボランティア活動を行いたいが、他の参加者と一緒に帰京しなくてもよい？

- A. 集合時間・場所から解散場所まで団体行動を守っていただければ、一緒に帰京しなくてもかまいません。ただし、活動場所～東京間の往復以外の経路にかかった交通費等は、「ボランティア活動支援金」の支援対象となりませんのでご注意ください。

Q-10. ボランティア活動中に困ったことが起きた場合はどうする？

- A. 参加者相互で協議して対応してください。対応困難な場合は、ボランティア支援班事務局へご相談ください（連絡先は Q-1 を参照）。

(4) 活動報告

平成25年8月29日

「福島県大熊町の避難生徒への学習支援（平成25年8月）」の活動報告

「福島県大熊町の避難生徒への学習支援」は、福島県教育委員会及び大熊町教育委員会からの要請により、大熊町から会津若松市に避難している大熊中学校の生徒を対象とした学習支援活動で、平成24年3月実施の第1回目（7泊8日）、同年8月実施の第2回目（7泊8日）に続き、今回は平成25年8月18日～8月23日（5泊6日）の日程で9名の学生ボランティアを派遣し実施した。

【活動概要】

- 日程：平成25年8月18日(日)～8月23日(金) [5泊6日]
- 参加学生：9名（学部学生5名、大学院学生4名）
- 宿泊場所：福島県会津自然の家（会津坂下町）
- 活動場所：大熊中学校（会津若松市内の仮校舎）の教室を利用
- 活動日程
 - 8月18日（日）（移動日）現地集合、活動打合せ・ミーティング等
 - 8月19日（月）～8月22日（木）
 - 活動10：00～16：00（学年別に学習のサポート）
 - 学習の時間割や進め方、レクリエーションの内容等はすべて学生が主体的に決定。
 - 8月23日（金） 活動10：00～16：00
 - 終了後、会津若松駅にて解散。

活動初日（19日）の開講式では、大熊中学校校長及び大熊町教育委員会教育長から挨拶があり、その後学生リーダー及び生徒代表の挨拶及び学生の自己紹介が行われた。

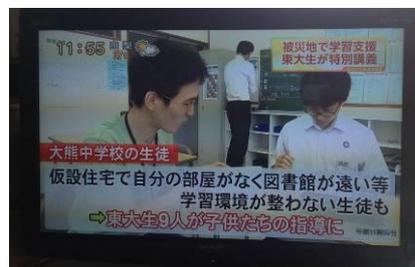
この日は福島テレビ局による取材があり、活動の様子が昼前の全国放送で放映された。



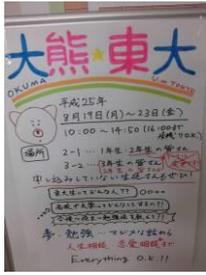
開講式の様子



学習支援活動の開始の様子



19日の福島テレビの放映



手作りポスター



学習する生徒たちとサポートの様子



勉強の間にレクリエーション



午後の学習前にみんなで記念撮影



個別の指導も

22日(木)には総長が大熊中学校を訪れ、学習支援の様子を視察、激励した。

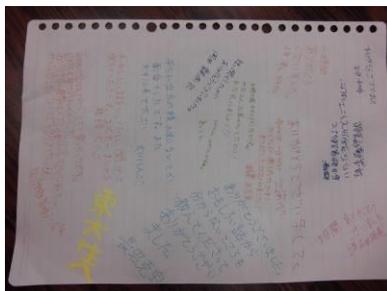


生徒に声をかける総長



生徒たちと総長

最終日は、閉講式が行われ、メッセージ集を交換するなど名残を惜しんだ。



生徒たちからのメッセージ



参加学生から生徒たちへ



閉講式にて

※ 参加生徒数

19日(月)	: 中学1年生 11名、2年生 0名、3年生 9名
20日(火)	: 中学1年生 13名、2年生 1名、3年生 13名
21日(水)	: 中学1年生 13名、2年生 7名、3年生 5名
22日(木)	: 中学1年生 15名、2年生 4名、3年生 10名
23日(金)	: 中学1年生 14名、2年生 3名、3年生 3名

【ボランティア参加者の活動報告（抜粋）】

○私は主に中学 1 年生を担当しましたが、生徒はみな素直で非常に教えやすかったです。日頃から中学の先生や親御さんが熱心に指導されていることが想像されました。例年と同様に勉強だけでなくレクを行い生徒が楽しんで参加できるようにすることを心がけました。今回は特に中 1 生の強い要望からサッカー、バスケットボールといったスポーツを、全日程を通じて 3 回ほど行いました。課題として挙げたのは、英語が全く分からない子へのアドバイスの仕方、国語の読解問題の指導の仕方など様々ですが、全体を通して、「釣った魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教える」という意識を皆で共有していました。生徒の人数が各クラス 10 人前後とそれほど多くなかったので、短期間で生徒一人一人の得意不得意を把握し、指導方針に反映させることができました。（学部 2 年生）

○宿題だけではなく、色々なことに知的な興味を持ってもらえるように、雑談を多く挟みました。なぜ日本語では「ん」だけなのに英語には「n、m、ng」があるのか。なぜメキシコからアメリカに向かう人々をヒスパニックと言うのか。などなど、生徒が持ってきた宿題にある問題に関連させていろいろ話しかけるように努めました。確かにその生徒さんの集中を害してしまったり、他の生徒さんの勉強の妨げになってしまったりという懸念はありましたが、生徒さんたちが真剣に、時折疑問・質問も発しながら聞いてくれたので、結果的には良かったと思います。

また、生徒自身の知的興味に基づいて疑問を解決できるように、どうやって学習していたらよいかにも少し触れました。個別的に生徒さんに回る形で指導する中で、教科書、資料集、友達・先生に聞く以外にも、本を読んだり、インターネットで調べたりととても基本的なことですが、大事なことだと私は思ったので、説明しました。もちろんリテラシーの話も織り交ぜつつでしたが。

全体を通して生徒さんと多く話したり、教えたり、逆に教えられたりすることができて少なくとも私はとても濃密な良い時間を過ごすことができました。（学部 4 年生）

○素直な生徒たちが多く、こちらの話を聞いてもらうのに苦労するという事は少なかった。また、学習の進度、理解度も著しく低い生徒はいなかったため、教えるのに苦労することも少なかった。

生徒たちとのコミュニケーションについては、中学生という年頃もあり、ボランティア開始前には不安があったが、親しみやすい生徒たちが多く、向こうから積極的に話しかけてくるケースも多かったので、やりやすかったし、かなり仲良くなれたのではないかと思います。（博士課程 4 年生）

5. ボランティア活動支援金

(1) 支給実績

平成23年度（平成23年12月～平成24年3月）

63件 支給額合計 1,129,040円

平成24年度（平成24年4月～平成25年3月）

287件 支給額合計 4,740,533円

平成25年度（平成25年4月～平成26年3月）

225件 支給額合計 3,905,280円

(2) 取扱要領

平成23年12月6日
救援・復興支援室

東日本大震災に係るボランティア活動支援金の取扱要項

1（趣旨）

この取扱要項は、東日本大震災の被災地域において救援・復興に関わるボランティア活動を行う本学の学生を支援するため、必要な事項を定める。

2（支援対象予定者）

支援対象予定者は、東日本大震災による被害を受けた青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県及び千葉県のうち、特に被害の甚大な市町村においてボランティア活動を行う本学の学部学生及び大学院学生とする。

3（支援内容）

- (1) 従事するボランティア活動が、東日本大震災の救援・復興に関わる活動であり、かつ、公的団体又は社会的に認知されているNPO・NGO団体等が主催する活動であると認められる場合において、その活動経費の一部又は全部を支援金として補助する。
- (2) 支援金の額は、当該ボランティア活動に要する交通費又は当該ボランティア活動の主催団体が定める参加費等に相当する額の範囲内で、かつ、1回の活動につき20,000円を上限とする。

4 (申請方法)

支援金を希望する者は、別に定める「申請要領」により申請するものとし、ボランティア活動を行う毎に申請することを可能とする。ただし、同一人による申請は、原則として、2回を限度とする。

5 (支援の決定)

支援対象者及び支援金額は、前項の申請の際に提出されたボランティア活動報告書等を審査の上決定し、その結果を本人に通知する。

6 (支援金の支払方法)

支援金は、申請者が指定した金融機関の口座に振り込むものとする。

7 (返還)

申請に虚偽があった場合は、支援金を返還させるものとする。

8 (事務)

支援金の取扱いに関する事務は、本部学生支援課が行う。

9 (その他)

- (1) この取扱要項による支援は、支援金の原資がなくなったときに終了する。
- (2) この要項に定めるもののほか、この要項の実施に当たって必要な事項は、別に定める。

(3) 申請要領

ボランティア活動支援金の申請要領

平成23年12月 6日 救援・復興支援室

平成24年 4月 1日 一部改正

「東日本大震災に係るボランティア活動支援金の取扱要項」の4に基づく、ボランティア活動支援金の申請手続については、下記の要領により行います。

なお、申請手続は当該ボランティア活動の終了後に行うこととなりますが、申請時の提出書類の中には事前に様式を準備していく必要のある場合がありますので、ご注意ください。

1 申請資格

本学の「東日本大震災にかかる救援・復興支援のためのボランティア活動について（平成23年6月7日通知）」、「教職員・学生の救援・復興支援活動に当たっての留意点について（平成23年8月2日通知）」等の通知の趣旨に沿って、被災地でボランティア活動を行う本学の学部学生及び大学院学生を対象とします。

2 申請対象となる活動内容

- (1) 東日本大震災による被害を受けた青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県及び千葉県のうち、特に被害の甚大な市町村における救援・復興に関わるボランティア活動であって、公的団体又は社会的に認知されているNPO・NGO団体等（以下「公的団体等」という。）が主催する活動に従事する場合とします。
- (2) 平成23年12月6日以降の活動を対象とします。

3 支援金の額

支援金の額は、当該ボランティア活動に要する交通費又は当該ボランティア活動を主催する公的団体等が定める参加費等に相当する額とします。

ただし、1回の活動につき20,000円を上限とします。

4 申請方法（提出書類等） ※ ホームページからダウンロードしてください。

- (1) 申請する際は、次に掲げる書類を提出してください。
 - ① ボランティア活動報告書（支援金申請を含む。）
 - ② 振込口座届
 - ③ 公的団体等で活動したことを証明する書類（活動受入証明書あるいは認印等）
 - ④ 公的団体等がボランティア活動に係る参加費等を定めている場合は、「ボランティア募集パンフレット」等の参加費等の金額がわかるもの
- (2) ボランティア活動毎に申請することができます。ただし、同一人による申請は、大学が企画する活動に参加した場合を除き、原則として、年度毎に2回までとします。
- (3) 申請書類は、本部学生支援課の窓口において受け付けます。

※ (1)の③、④の証明書等の提出がない場合は、支援金の補助ができませんので注意してください。

5 支援の決定

申請の際に提出されたボランティア活動報告書類等を審査の上決定し、その結果を同書類に記載の連絡先に通知します。

6 支援金の振込み

原則として、申請のあった翌月の末日までに届出のあった口座に振り込みます。

7 その他

この支援金の補助は、原資がなくなったときに終了します。

8 問い合わせ先

本部学生支援課（本郷キャンパス学生支援センター地下1階）

電話：03-5841-2524

FAX：03-5841-2519

6. ボランティア活動状況調査の結果

- (1) 第1回活動状況調査
(調査期間：平成23年3月11日～平成23年5月12日)
 - (1) - 1. 学生
 - (1) - 2. 教職員

- (2) 第2回活動状況調査
(調査期間：平成23年5月13日～平成23年9月30日)
 - (2) - 1. 学生
 - (2) - 2. 教職員

- (3) 第3回活動状況調査
(調査期間：平成23年10月1日～平成24年5月10日)
 - (3) - 1. 学生
 - (3) - 2. 教職員

- (4) 第4回活動状況調査
(調査期間：平成24年5月11日～平成25年3月31日)
 - (4) - 2. 学生
 - (4) - 3. 教職員

※第1回、第2回は平成23年度に、第3回は平成24年度に調査したもの。

(1) 第1回活動状況調査
(1) - 1. 学生

東京大学学生におけるボランティア活動状況一覧

■ 学生参加者 110名

調査内容：震災発生からゴールデンウィークまでの学生ボランティア活動状況を調査

平成23年5月16日 現在

部局	学生別				参加期間		宿泊数			宿泊地	参加団体窓口	参加ボランティア内容	備考
	学部生	院生	院生 修士	院生 博士	GW前 ~4/27	GW中 4/28-5/9	2泊3日迄	3泊4日以上 6泊迄	7泊以上				
法学政治学研究所	1					1				C)1	A)1	バス	
医学系研究所	8	13	2		8	5	3	7	5	C)2 D)6 C)4 D)9 D)2	C)1 D)7 A)1 C)3 D)9 D)2	バス バス バス	
工学系研究所	9	19	5	1	4	11	5	12	2	A)3 C)2 D)4 A)4 C)6 E)1 D)6 J)2 A)1 F)1 H)1 D)1 J)1 C)1	A)4 B)1 C)2 D)2 A)2 B)5 C)10 D)2 A)2 C)2 D)1 C)1	A)4 G)5 A)7 E)1 F)1 G)10 A)2 F)1 G)2 F)1	バス バス バス バス
人文社会系研究所	2				1	1	1	2		A)2	A)1 C)1	バス	
農学生命科学研究科	2	10			2	5	1	8	1	A)2 B)3 C)5 D)2	D)2 D)10	バス 車	
経済学研究所	5	2			1	4	3	2		A)2 C)1 J)2 A)1 C)1	A)4 D)1 A)1 C)1	バス バス	
総合文化研究所	5	3			3	5	1	4		A)1 A)5 A)3	C)1 A)5 C)1 C)3	バス バス バス	
新領域創成科学研究科	13	6			4	9	10	3		A)8 C)1 D)3 J)1 A)3 C)1 D)2	B)1 C)10 D)2 A)3 C)3	バス 車 バス 車	
情報学環													
計	24	55	24	5	2	43	67	62	12				
合計							110		110			バス	

※1人が複数回参加している場合があり、人数は延人数である。
※農学生命科学研究科については、学生証番号及び修士、博士等の標記をしない意向のため、大学院学生は全て院生修士に集計した。

(1) - 2. 教職員

東京大学教職員におけるボランティア活動状況一覧

■教職員参加者 21名

調査内容：震災発生からゴールデンウィークまでの教職員ボランティア活動状況を調査

平成23年5月16日 現在

部局	教職員別		参加期間		宿泊数			活動場所	仲介団体	参加ボランティア内容	備考
	教員 (特定有期含 む)	教員以外 (特定有期、 短時間含む)	GW前 ~4/27	GW中 4/28-5/9	2泊3日迄	3泊4日以上 6泊迄	7泊以上				
1 医学系研究科	2			2	2			B)2	B)2	A)がれき撤去 B)被災障害者支援等 C)健康把握訪問 D)一般ボランティア E)その他	
2 理学系研究科	1		1			1		C)1	E)1		
3 経済学研究科	2		2		1	1		A)1 D)1	E)2	B)2	
4 総合文化研究科		3	1	2	3			C)1 E-F)1 G)1	C)1 D)1 E)1	D)3	
5 教育学部		4				4		B)4	F)4	D)4	
6 情報理工学系研究科		1				1		A)1	A)1	D)1	
7 情報学環	1			1	1			C)1	E)1	D)1	
8 医科学研究所	3		1	2		3		H)1 C)2	E)3	A)3	
		1	1		1			H)1	E)1	A)1	
9 生産技術研究所	1			1	1			D)1	E)1	E)1	
10 本部		2				2		B)1 C)1	E)2	A)1 D)1	
計	10	11	6	15	10	11	0				
合計		21	21	21		21					

※1人が複数回参加している場合があり、人数は個人数である。

(2)第2回活動状況調査
(2)－1. 学生

東京大学「学生」のボランティア活動状況一覧

■参加者数

223 名

調査期間：平成23年5月13日～平成23年9月30日

部局	学生別			参加期間					活動日数			活動地	参加団体窓口			参加ボランティア内容		備考				
	学部生	院生 修士	院生 博士	専門職 院生	研究生 他	5月	6月	7月	8月	9月	未記入		3日以内	4日以上 ～1週間	8日以上未記入	生協	現地の 団体		その他 (NPO 等)	不明	本学ボ ランティア ア隊 参加者	それ以 外
医学系研究科	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
工学系研究科	22					2	8	2	10		10	12				14	1	7	8	14		
人文社会系研究科	18	12	3		2	1	3	4	2	1	4	7	1			6	2	4	4	8		
理学系研究科	1																					
農学生命科学研究科	6	7	3		1	3	1	3	1	1	5	1	2			1	2	3	3	6		
経済学研究科	5																					
総合文化研究科	76	5	3		9	3	29	12	23		41	35				4	43	1	28	33	43	
教育学研究科	8	2	1																			
薬学系研究科	3	1																				
新領域創成科学研究科		5	2				4															
情報理工学系研究科		7				1			6			7				6		1	1		7	
公共政策大学院																						
計	140	53	19	9	2	26	24	61	48	61	3	88	125	7	3	10	142	18	53	84	136	3
合計											223								223			223

※1人が複数回参加している場合があり、人数は延人数である。

(2)ー2. 教職員

東京大学「教職員」のボランティア活動状況一覧

■参加者数

130名

調査期間：平成23年5月13日～平成23年9月30日

部局	教職員別		参加期間				活動日数		活動地	参加団体窓口			参加ボランティア内容		備考	
	教員 (特定有期含む)	教員以外 (特定有期、短 時間含む)	5月	6月	7月	8月	9月	3日以内 ～1週間		4日以上 8日以上	生協	現地の 団体	その他 (NPO 等)	不明		本学ボラン ティア隊 参加者
理学系研究科	3	1		1	1	1	1	3	1		1	3			4	
農学生命科学研究科	2	12	1	1	2	4	6	10	4		6	6	2	1	13	
経済学研究科	6	1	1	3	1	1	1	6	1		6	1		1	6	
総合文化研究科	4	18	1	5	5	8	3	14	7	1	16	6		4	18	
教育学研究科	1	4	1	1	3	1	1	1	4		3	2		1	4	
医科学研究所	2	11		1	1	4	7	2	11		10	3		10	3	
生産技術研究所	5	2		3	2	2	2	2	5		3	4		3	4	
史料編纂所	1	4	2		1	2	2	4	1		2	3		1	4	
宇宙線研究所	1	3				1	3	4	4		4			4		
アイソトープ総合センター	8	3		2	5	2	2	9	1	1	2		9		11	
本部(教育・学生支援部、 国際部、人事部)	1	21		2	3	15	2	2	20		18	4		16	6	
環境安全本部	2	4		1		4	1	2	4		6			4	2	
その他(2名以下の部局) 人文社会科学系研究科、学際情報学府、新領域創 成科学研究科、社会科学研究所、分子細胞生 物学研究所、物性研究所、低温センターの合 計	5	5		1	1	6	2	4	6		6	4		5	5	
計	41	89	6	20	20	53	31	59	69	2	0	83	36	11	50	80
合計		130					130		130					130		130

※1人が複数回参加している場合があり、人数は延人数である。

(3) - 2. 教職員

東京大学「教職員」のボランティア活動状況一覧

参加者数 60

調査期間: 平成23年10月1日～平成24年5月10日

部局	教職員別		参加期間												活動日数			活動地	参加団体窓口			参加ボランティア内容	
	教員 (特定有期 含む)	教員以外 (特定有 期・短時間 含む)	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	(未記入)	3日以内 (未記入)	4日以上 ~1週間	8日以上 (未記入)	現地の団 体		その他 (NPO等)	不明	本学主催 ボラン ティア隊	それ以外	
1 法学政治学研究所	1											1			1			1			1		
2 医学系研究所	1											1						1				1	
3 工学系研究所		3										1	2		3						3		
4 人文社会系研究所																							
5 理学系研究所																							
6 農学生命科学研究科		5										2	3		4			4	1		4	1	
7 経済学研究所	1											1			1			1			1		
8 総合文化研究所		19			2	4	3	2	3	2	1	2		15	4			5	14		2	17	
9 教育学研究所																							
10 薬学系研究所	1														1			1			1		
11 新領域創成科学研究科																							
12 情報理工学系研究所	1														1			1			1		
13 公共政策大学院																							
14 国際本部		2										2									2		
15 学生相談ネットワーク本部	1													1								1	
16 本部		4													2	2		4			2	2	
17 地震研究所																							
18 生産技術研究所	1														1			1			1		
19 史料編纂所	1														1			3			2	1	
20 物性研究所		2													2			1				2	
21 大気海洋研究所															1			1			1	1	
22 低温センター		1													1			1			1		
23 アイソトープ総合センター	6														1			1			1	1	
計	14	46	1		2	5	5	5	4	2	2	14		25	27	8		31	28	1	29	31	
合計		60											60								60	60	

※1人が複数回参加している場合があり、人数は延人数である。

(4)ー2. 教職員

東京大学「教職員」のボランティア活動状況一覧

■参加者数

調査期間：平成24年5月11日～平成25年3月31日

部局	教職員別		参加期間												活動日数			参加団体窓口			参加ボランティア内容			
	教職員 (特定有期 含む)	教職員以外 (特定有期、短時間 含む)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	(未記入)	3日以内	4日以上 ～1週間	8日以上	(未記入)	現地の団体	その他 (NPO等)	不明	本学主催 ボランティア チーム	それ以外	
1 法学政治学研究所																								
2 医学系研究所	4			1	2	1	2								4			3	1	3				4
3 工学系研究所		3	1			2									1	2		1	2			2		1
4 人文社会系研究所		3				3									3	3			3			3		
5 理学系研究所							1		1						3				3					3
6 農学生命科学研究科		3					1		1						2	1			3			1		2
7 経済学研究科	4							1	1						4									4
8 総合文化研究科		6	1	1	1	1	1	1	1				1		6				2	4				6
9 教育学研究科																								
10 薬学系研究所																								
11 新領域創成科学研究科																								
12 情報理工学系研究科		1					1									1			1			1		
13 公共政策大学院																								
14 生産技術研究所		3					2			1					2	1			1	2		1		2
15 史料編纂所		5	1	1					1				2		5					5				5
14 先端科学技術研究センター		2					2									2			2			2		
16 本部		3					3	17	2	2	4	2	3		3				3			3		
計	8	32	3	2	3	3	17	2	2	4	2	2	3		27	13			21	19		13		27
合計		40												40					40			40		40

※1人が複数回参加している場合があり、人数は延人数である。

7. 組織・メンバー

東日本大震災に関する救援・復興支援室 ボランティア支援班メンバー（平成25年度）

	所属・職名	氏名	備考
担当役員	理事・副学長	長谷川 壽一	
担当役員補佐	経済学研究科教授	柳川 範之	総長補佐
〃	総合文化研究科教授	藤垣 裕子	総長補佐
班 長	教育・学生支援部長	富田 靖博	
副班長	教育・学生支援部副部長	柳田 則幸	
班 員	学生支援課長	安保 忠明	
〃	人事企画課長	粒來 英雄	
〃	ボランティア支援担当課長	川久保 亨	
〃	教養学部事務部学生支援課長	高橋 喜博	駒場キャンパス
〃	新領域創成科学研究科事務長	原 健四郎	柏キャンパス
〃	企画課副課長	山本 哲也	
〃	学生支援課係長	鶴沢 正浩	
〃	学務課係長	安藤 昭浩	
〃	人事企画課係長	小林 正樹	
〃	人事企画課主任	寺床 純三	
〃	学生支援課職員	海老沢 樹	
〃	学生支援課職員	藤田 裕美	
アドバイザー	総長顧問	武藤 芳照	前理事・副学長

※ 班の庶務は、人事企画課と連携して学生支援課が担当する。

平成25年度 東日本大震災 ボランティア支援活動記録

作成 平成26年3月

編集 東京大学 救援・復興支援室 ボランティア支援班

住所 〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

電話番号 03-5841-2529

URL http://www.u-tokyo.ac.jp/public/recovery/volunteer_j.html